

経営近況報告会

2017年6月26日

モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉智也

Part 1

モーニングスターグループの概況

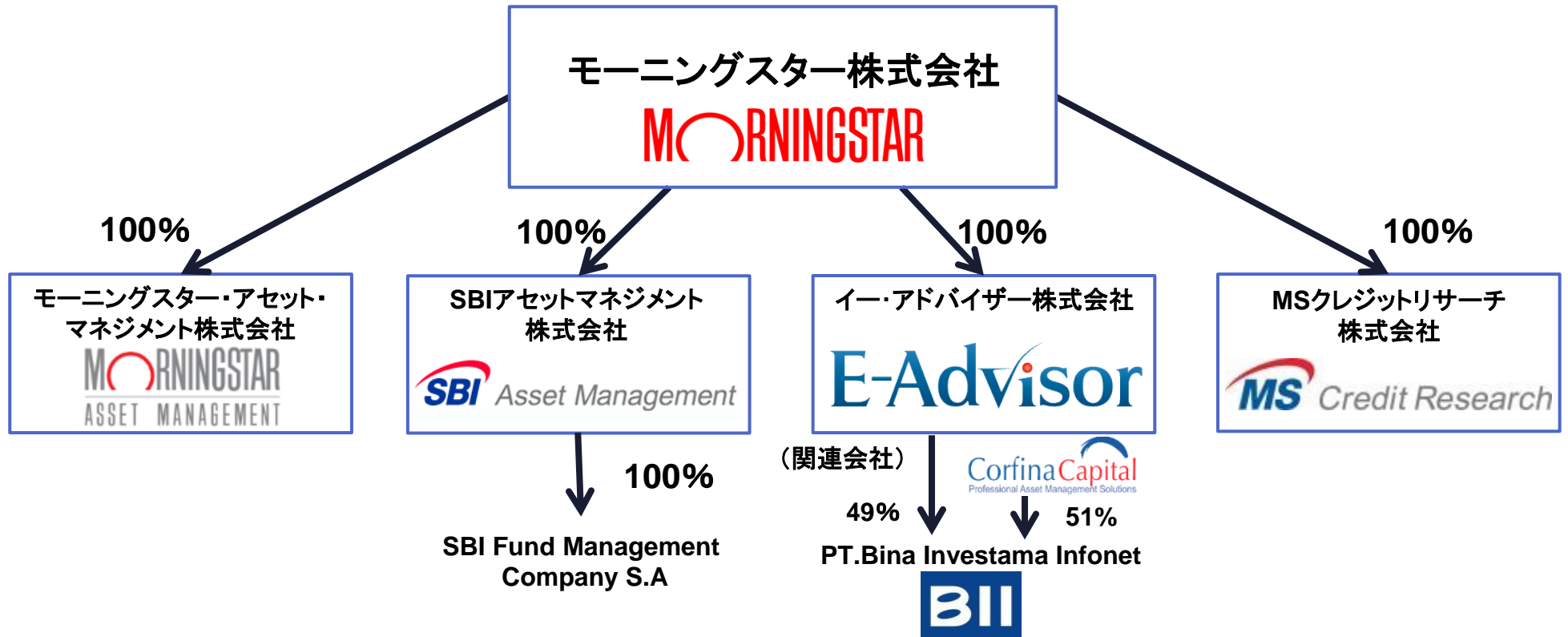
「投資家主権の確立」を支援するモーニングスター

30年超の実績

1984年 Morningstar Inc 設立
 1998年3月 モーニングスター株式会社 設立
 2000年6月 モーニングスター株式会社 : NASDAQ JAPAN
 (現 東証JASDAQ)に上場

2018年3月 モーニングスター株式会社 創業20周年

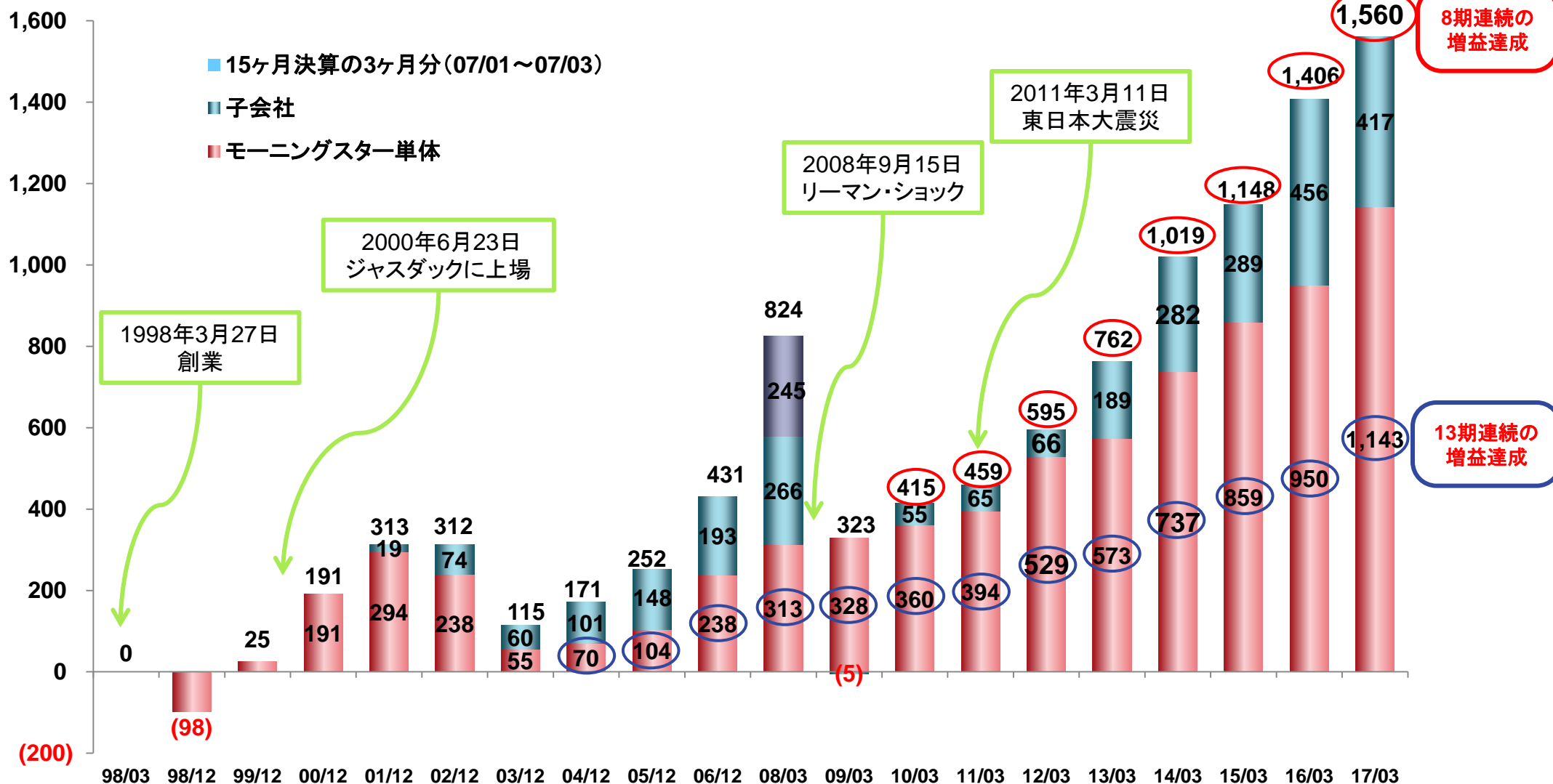
世界27拠点への展開



創業来の営業利益の推移

連結は8期連続の増益、単体は13期連続の増益

(単位:百万円)



※1 当社は2000年6月23日に大阪証券取引所ナスダックジャパン(現東京証券取引所ジャスダック)に上場いたしました。

※2 2008年3月期は決算期変更による15ヶ月の変則決算であり、2007年1月から3月までの変則期間の利益を別にして、2007年4月から2008年3月までの12ヶ月間の利益で、連続増益期間数を算定しております。

※3 上記グラフは、連結消去金額について記載を省略しております。

モーニングスターのブランドカ

<インターネットメディア>

- Yahoo ファイナンス 
- MSN 
- NTT レゾナント 
- ビッグロブ 
- ミクシー 
- ドワンゴ 
- ニフティ 



<ニュースメディア>

- 日本経済新聞
- NHK
- ダウ・ジョーンズ
- ロイター
- ブルームバーグ
- 時事通信社



<オンライン証券>

- SBI証券 
- 楽天証券 
- カブドットコム証券 
- 大和証券 
- マネックス証券 

<テレビ放送>

- NHK
- ワールドビジネスサテライト
- (WBS)
- 日経CNBC



<投資セミナー>

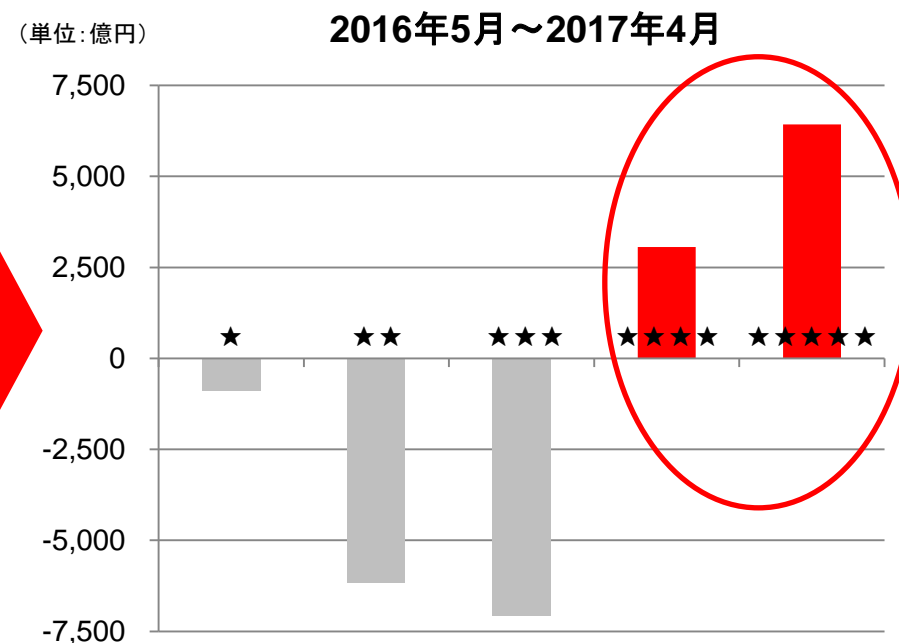
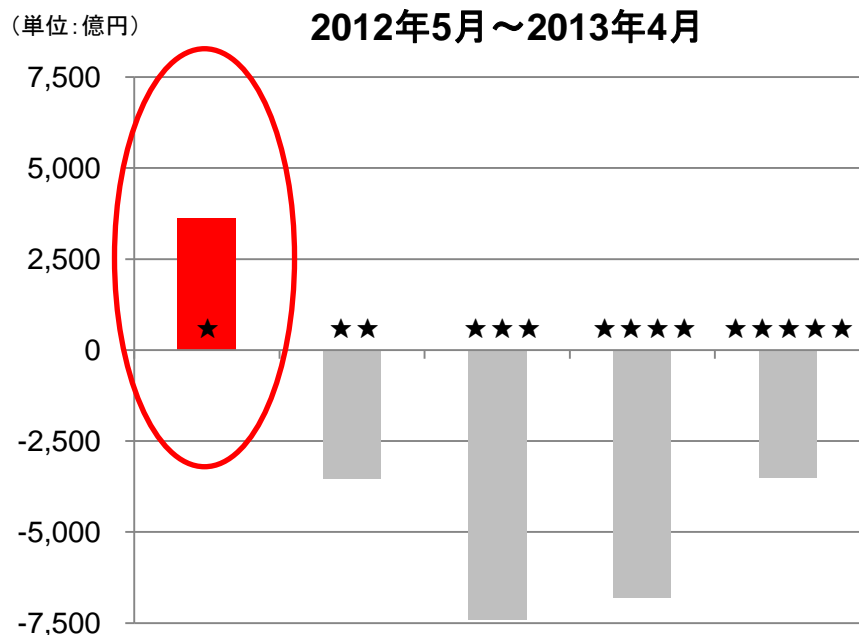


<書籍>



モーニングスターレーティングの影響力

日本の投信市場の資金流出入動向



出所: モーニングスター作成

■モーニングスターレーティング



同一カテゴリー(小分類)内で、ファンドのリスク調整後パフォーマンスが相対的にどのランクに位置するかを★印で評価。

- (1) 評価対象ファンド
・運用期間3年以上のファンド
- (2) 計算期間
・過去3年間、5年間、10年間

- (3) レーティングの分布状況
- ★★★★★ : 上位 0.0%～10.0%
 - ★★★★☆ : 上位 10.0%～32.5%
 - ★★★☆☆ : 上位 32.5%～67.5%
 - ★★☆☆☆ : 上位 67.5%～90.0%
 - ★☆☆☆☆ : 上位 90.0%～100.0%

モーニングスターの資産運用セミナーの集客力と満足度



■ iDeCoセミナー
 開催日 : 2017年1月20日
 来場者数 : 379名
 満足度 : **81.2%**
 (大変参考になった・参考になった)

85.2%の方がiDeCoを「始めたい」
 または「興味を持った」と回答



■モーニングスター女性限定セミナー2017
 開催日 : 2017年2月28日
 来場者数 : 365名

アンケート回収率 : **91.7%**
 アンケートのコメント記入率 : **82.9%**
 満足度 : **98.0%**
 (また参加したい)

セミナー
 初参加が
 57%を超える

■参加者からの声

- ・とてもためになる話が聞けました。特に朝倉様の話は分かりやすく、聞きやすかったです。
- ・今日は、とても充実したセミナーを開催頂き、ありがとうございました!! 独学で色々調べていたものの、プロの意見を伺えて、更に学びも深まり、次は行動するのみです!! 本日学んだことを活かして、資産運用をしていきます。本当にありがとうございました!!

■参加者からの声

- ・非常に分かりやすく、ためになる説明でした。また機会があれば是非参加したいです。
- ・信用金庫で運用専門の営業をやっています。初めて参加しました。大変参考になり、明日からの業務に活かしたいと思います。

大規模セミナー投信EXPOの開催

<第1回開催>

日時:2016年9月17日(土)10:00~16:00
 主催:モーニングスター株式会社
 会場:東京ミッドタウンホール
 協力:SBI証券
 協賛:34社 (内特別協賛3社)
 集客:1,920名

<第2回開催>

日時:2017年9月16日(土)10:00~16:20
 主催:モーニングスター株式会社
 会場:東京ミッドタウンホール
 協力:SBI証券
 協賛:目標35社
 集客:来場者目標 2,500名

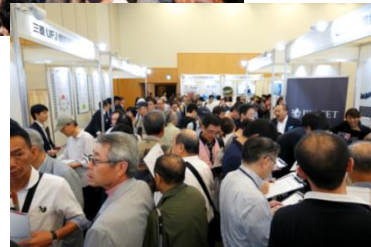


【基調講演】

蟹瀬 誠一 氏、伊藤 元重氏、朝倉 智也

【基調講演】

森永 卓郎 氏、朝倉 智也



■参加者からの声

- ・大変良い企画であり、参考になった。
- ・関西圏も同じ規模のセミナーを開催して欲しい。
- ・理解を深めることができました。またの機会にも参加させていただきます。
- ・午前10時からメインホールのセミナーを中心に参加したが、非常に参考になって良かったと思う。

Part 2

2017年3月期の業績のハイライト

連結業績

営業利益、経常利益は8期連続増益、6期連続過去最高益を更新

(単位:千円)

	2016年3月期 (2015年4月～2016年3月)	2017年3月期 (2016年4月～2017年3月)	増減率 (%)
売上高	4,669,570	4,790,853	2.6
営業利益	1,406,004	1,560,426	11.0
経常利益	1,406,639	1,618,000	15.0
当期利益	918,363	1,025,634	11.7

※当期利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を意味する。

<投資信託の資金流入は大幅に減少>

(単位:兆円)

	2016年3月期 (2015年4月～2016年3月)	2017年3月期 (2016年4月～2017年3月)	増減率(%)
公募追加型株式投信(ETF除く)の純資金流入額	11.9	1.3	△ 88.9

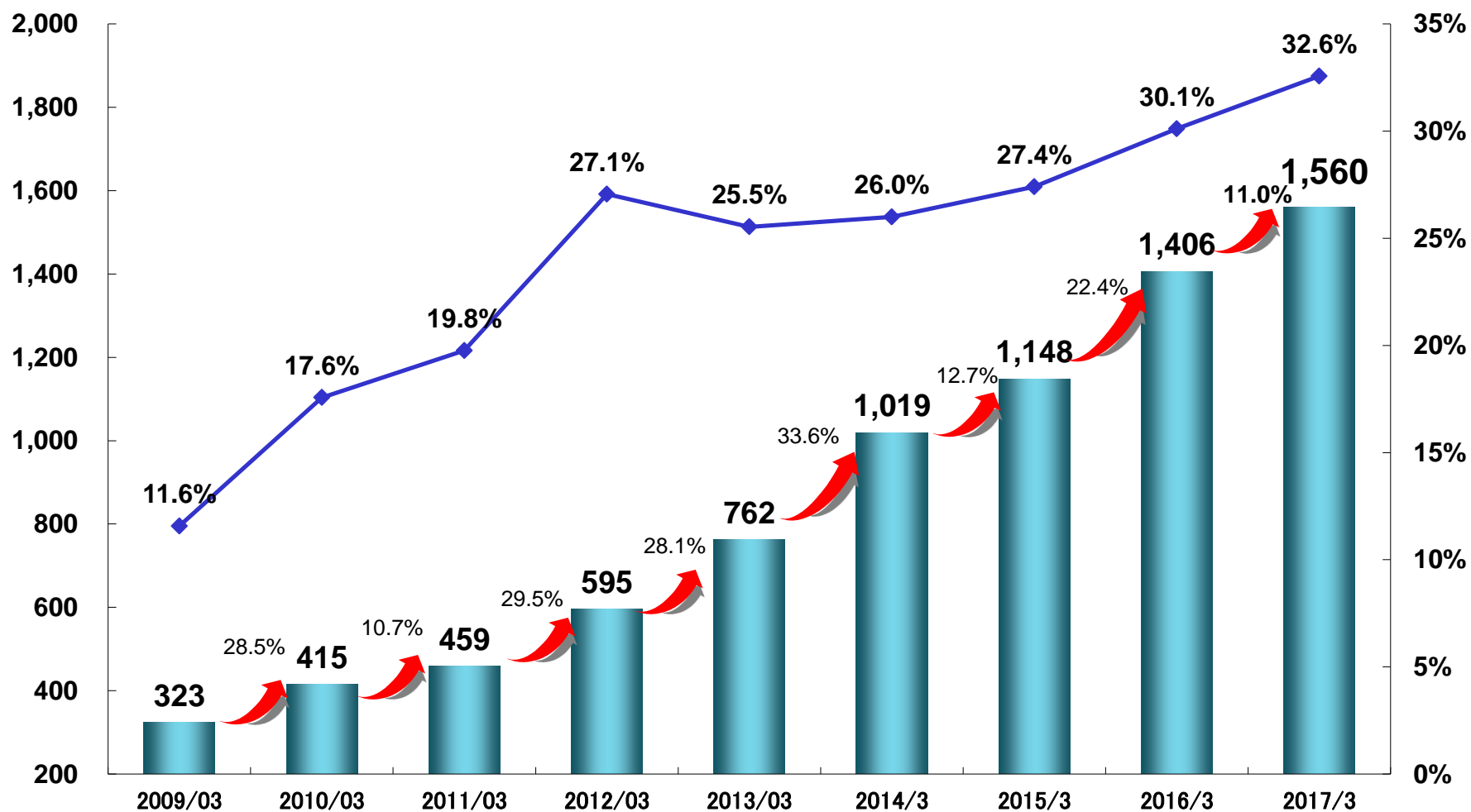
※出所:投資信託協会のデータよりモーニングスター作成

連結営業利益の推移

8期連続の2桁以上の増益、営業利益率は32.6%

(単位:百万円)

(単位:%)

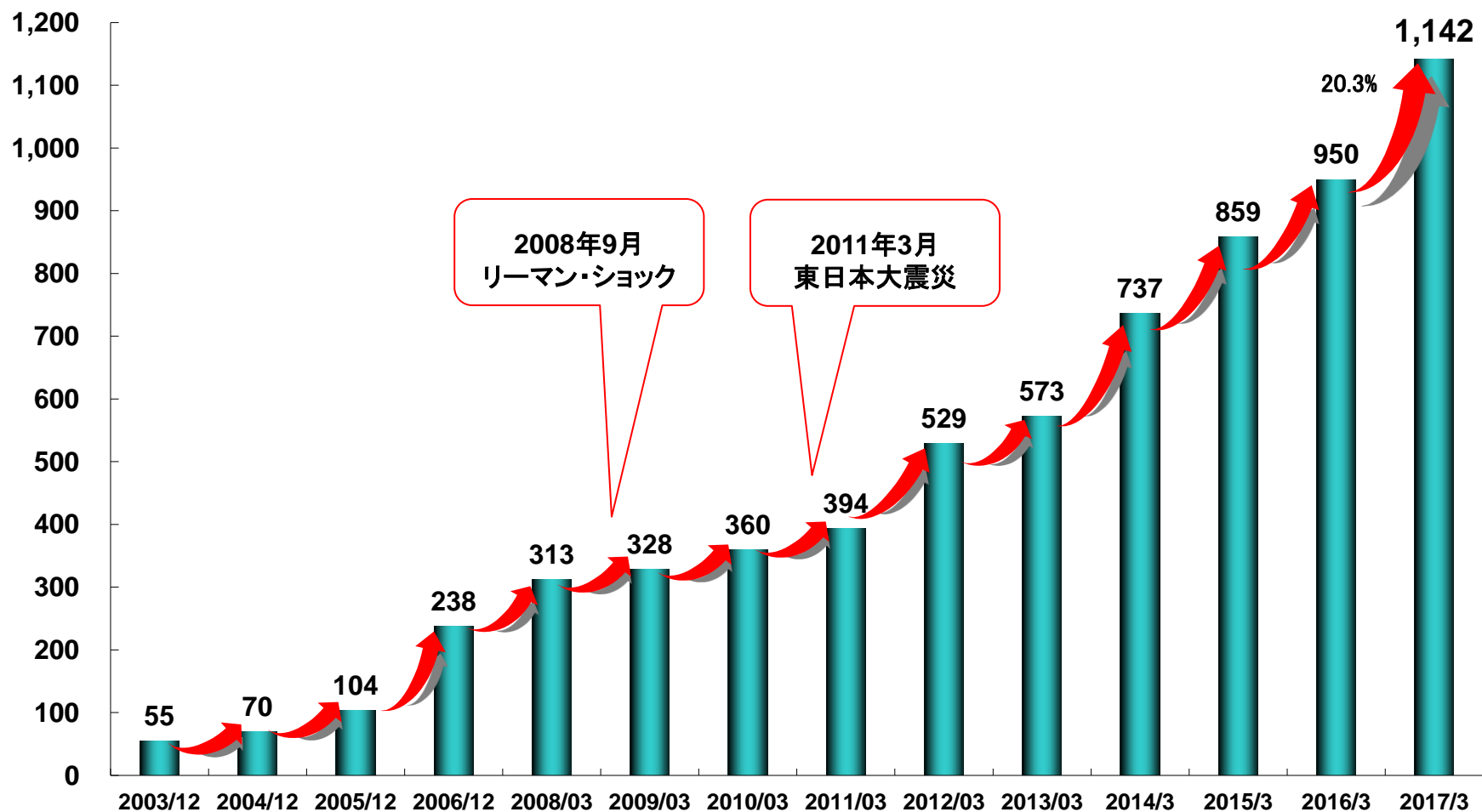


モーニングスター単体の営業利益の推移

モーニングスター単体は13期連続の増益

＜リーマン・ショック、東日本大震災の時でも増益を確保＞

(単位:百万円)

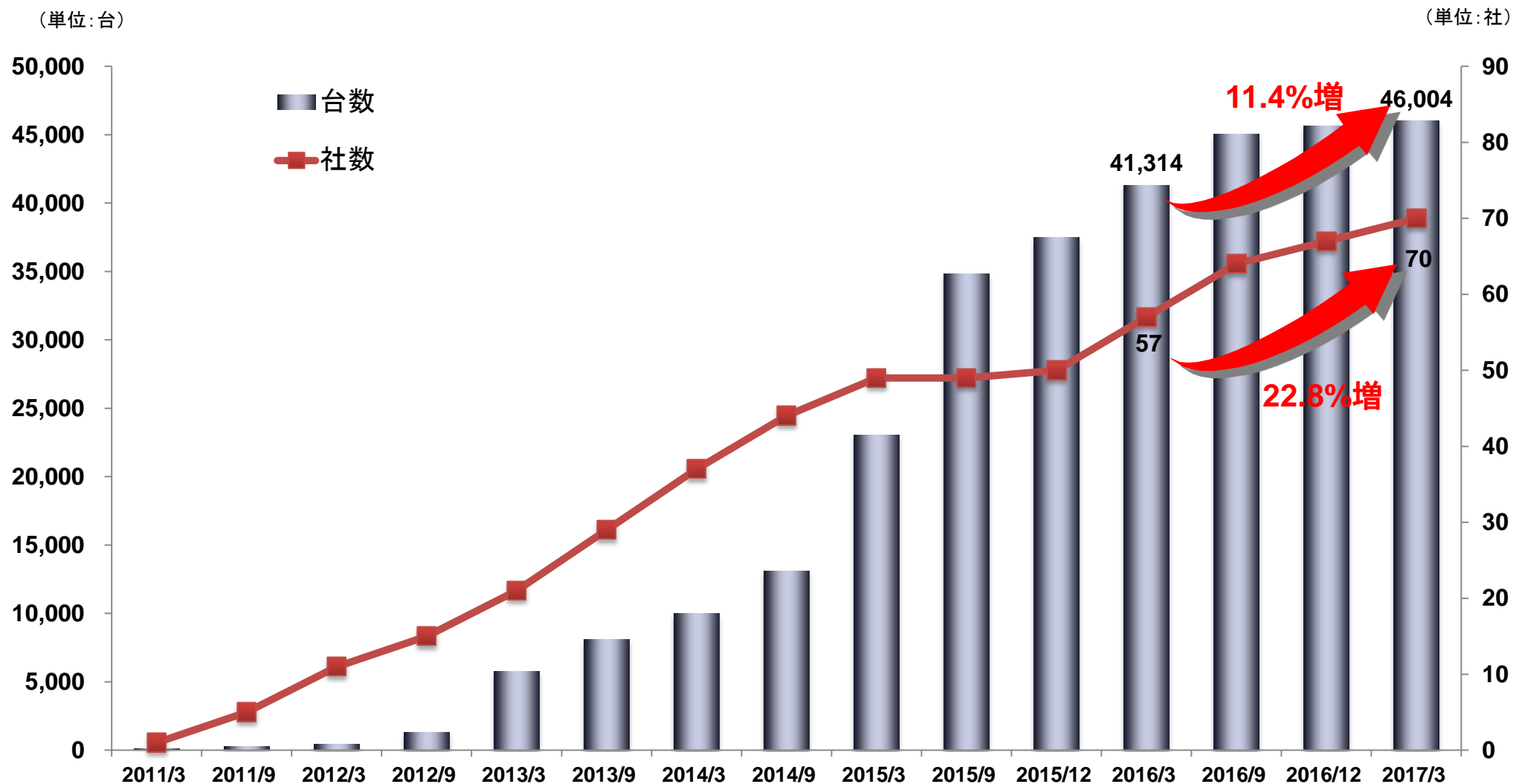


※ 2008年3月期は決算期変更による15ヶ月の変則決算であり、2007年1月から3月までの変則期間の利益を別にして、2007年4月から2008年3月までの12ヶ月間の利益で、連続増益期間数を算定している。

タブレットアプリの提供社数及び提供台数

(2017年3月末時点)

提供社数: 70社 提供台数合計: 46,004台



タブレットを利用する金融機関にトータルソリューションを提供

<トータルソリューション>



販売員研修・勉強会



ログ解析による改善提案



セールストーク事例集の作成



定期便のお届け



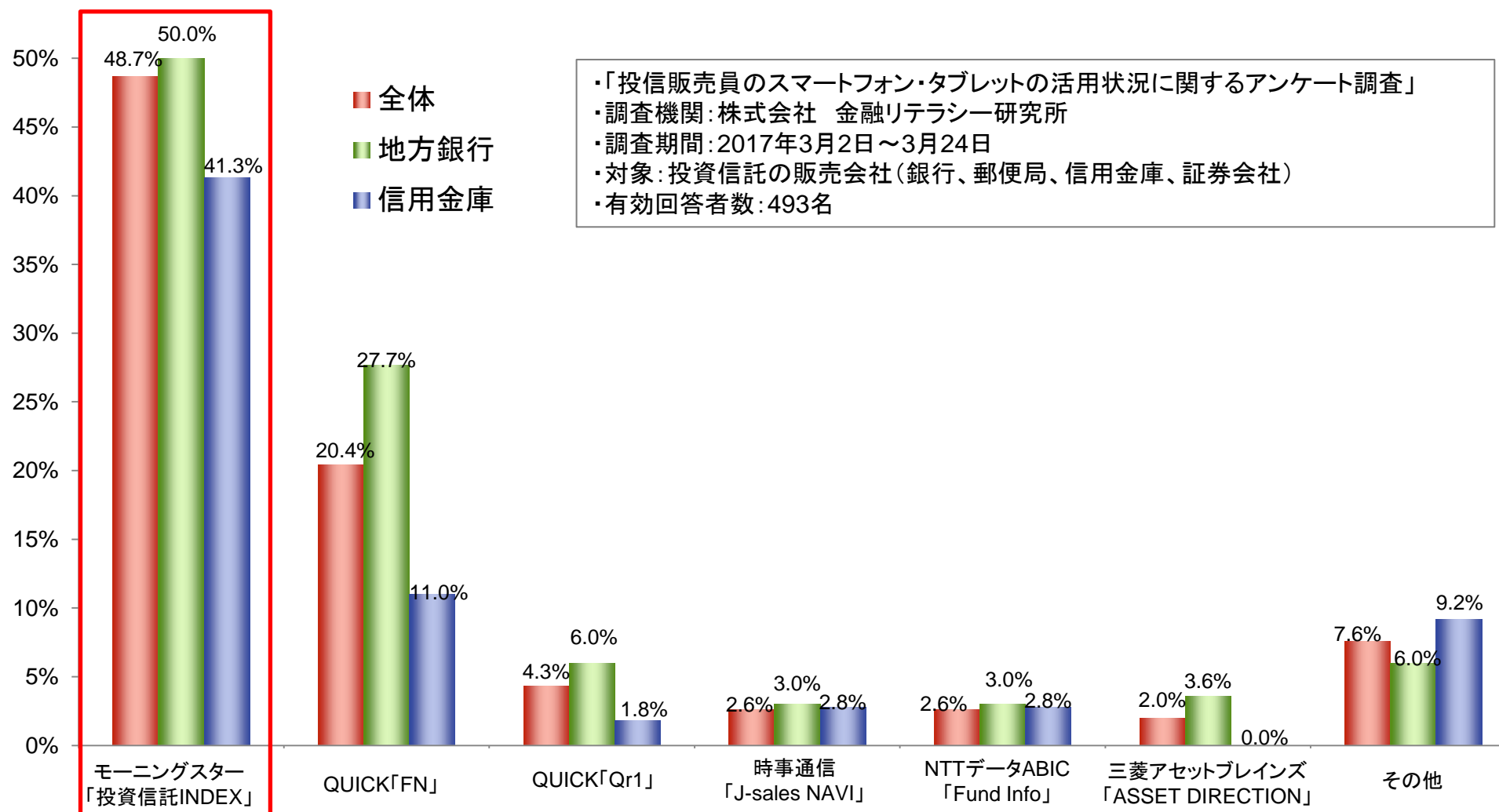
ポートフォリオゲーム



モーニングスターならではの研修・改善提案を行っていき、
高い利用率の維持とスキルアップのサポートを提供する

投信販売の現場で最も活用されている モーニングスターのタブレットアプリ

モーニングスターのタブレットアプリ「投資信託INDEX」が、
投信販売員が現場で活用するアプリで第一位に選ばれる！



ロボ・アドバイザーツールを中心とした FinTech関連事業の売上高が大幅に拡大

<FinTech関連事業の売上高>

(単位:千円)

160,000

140,000

120,000

100,000

80,000

60,000

40,000

20,000

0

- ✓ 金融機関勘定系と自動連携
- ✓ スクレイピング等のFinTech技術の活用
- ✓ 簡易診断・資産配分提示型
- ✓ 国内全投資信託の積立投資シミュレーション
- ✓ 中立的な評価情報の活用

126,522

4.9倍増

25,680

2016年3月期

2015年4月～2016年3月

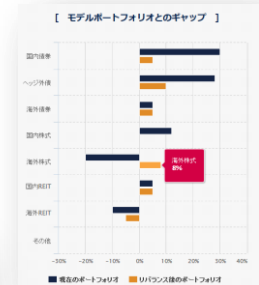
2017年3月期

2016年4月～2017年3月

金融行政指針に則った 顧客本位な提案



スクレイピング等の FinTech技術の活用

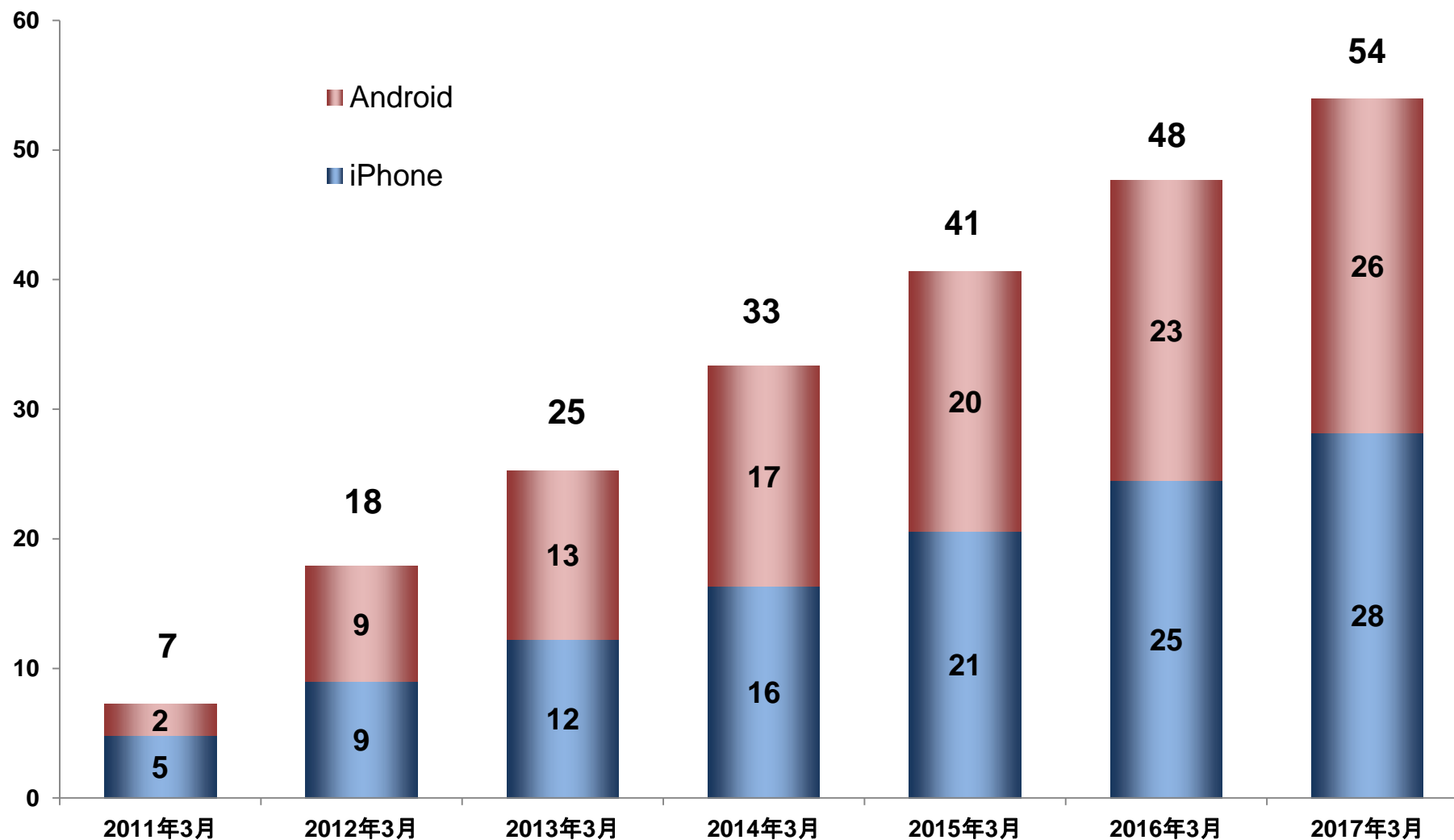


将来予測を加味した推計



モーニングスターのスマートフォンアプリ「株・投信情報」のダウンロード数

(単位: 万)

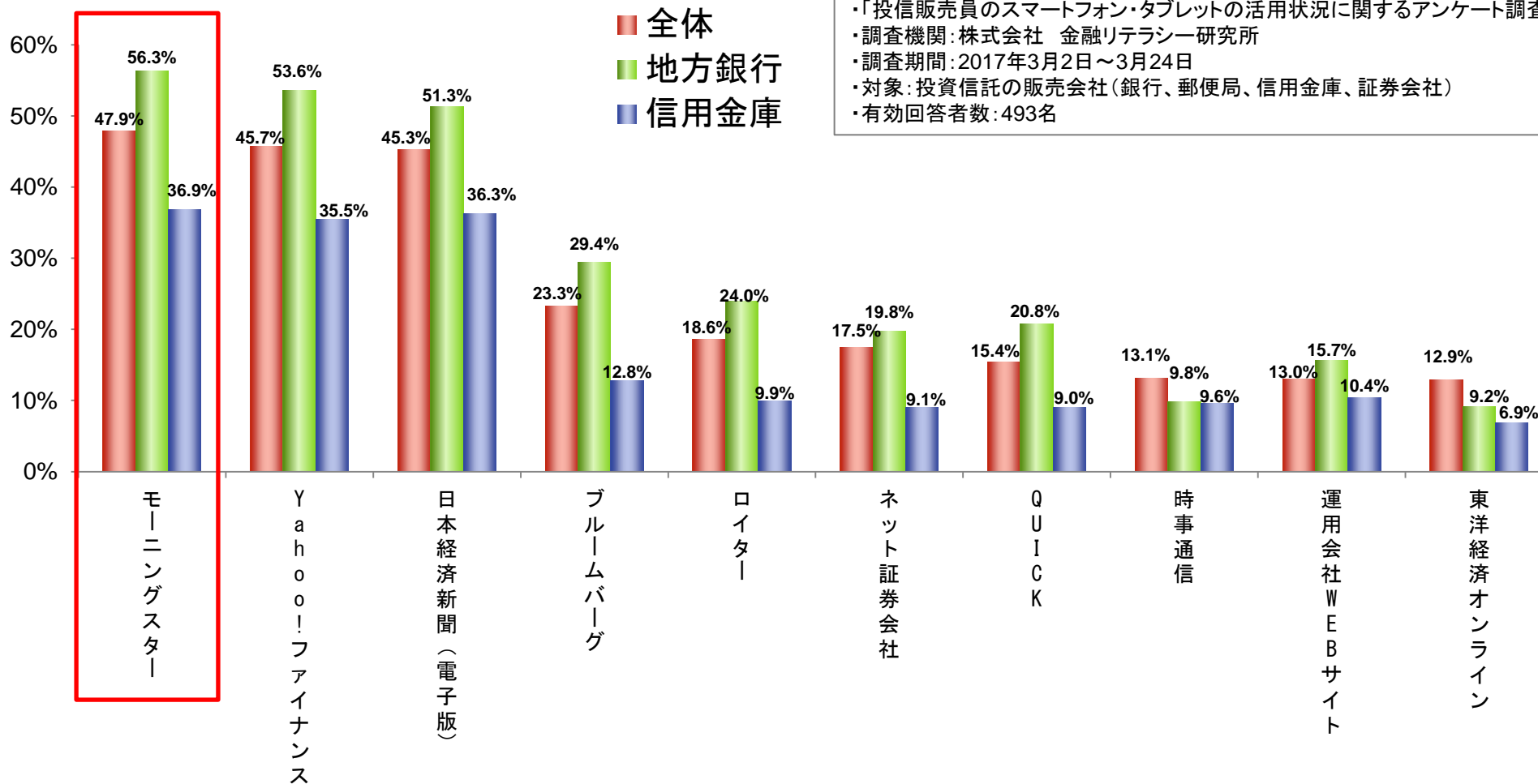


投信販売員から高い支持をうける モーニングスターのスマートフォンアプリ

モーニングスターのスマートフォンアプリ「株・投信情報」が、
投信販売員が金融情報の収集で活用するアプリ※で第一位に選ばれる！

※週2～3日以上、「マーケット・投資信託」の情報収集で活用するアプリ

■回答者属性(493名)

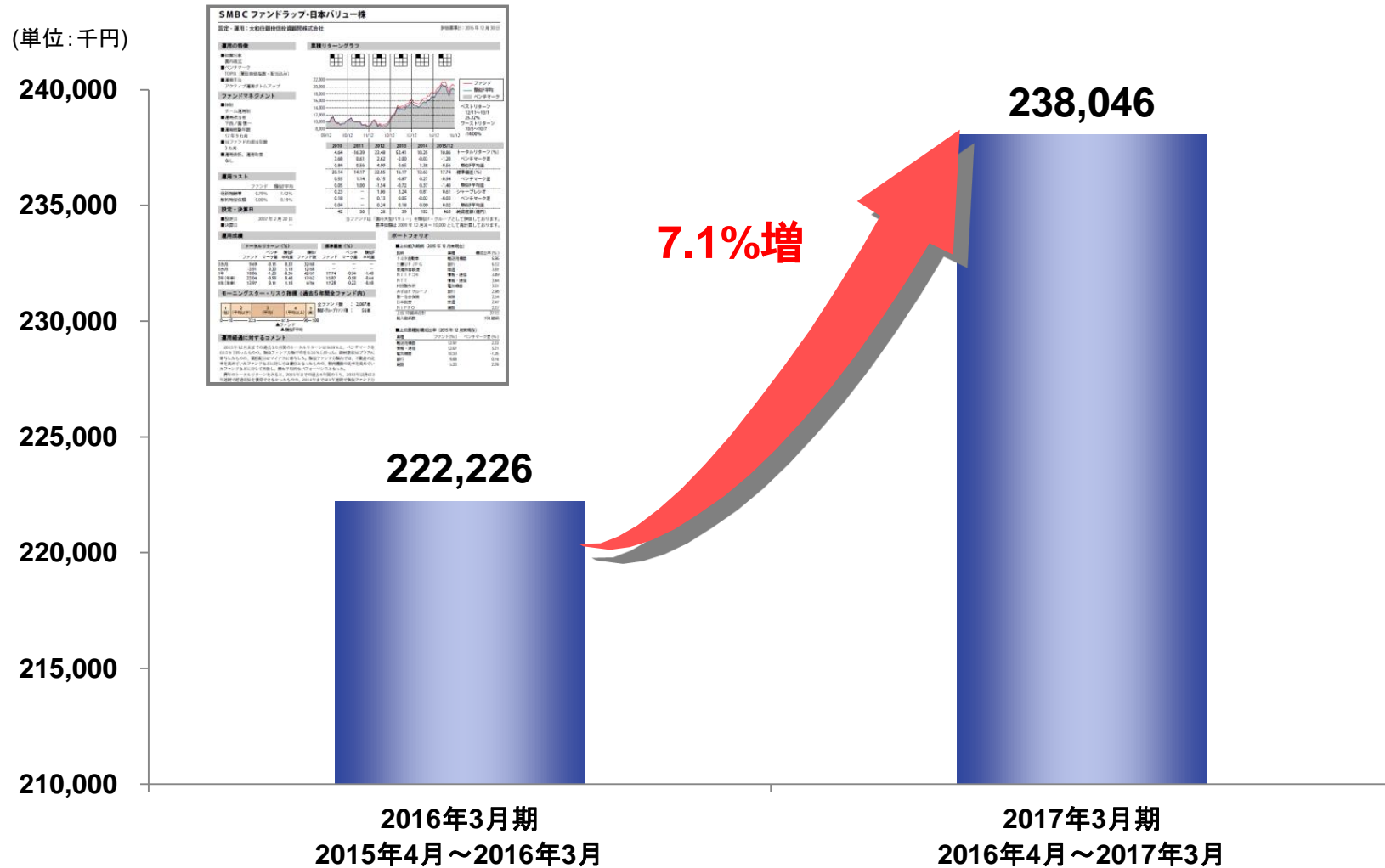


・「投信販売員のスマートフォン・タブレットの活用状況に関するアンケート調査」
 ・調査機関: 株式会社 金融リテラシー研究所
 ・調査期間: 2017年3月2日～3月24日
 ・対象: 投資信託の販売会社(銀行、郵便局、信用金庫、証券会社)
 ・有効回答者数: 493名

金融機関のフィデューシャリー・デューティーのサポート

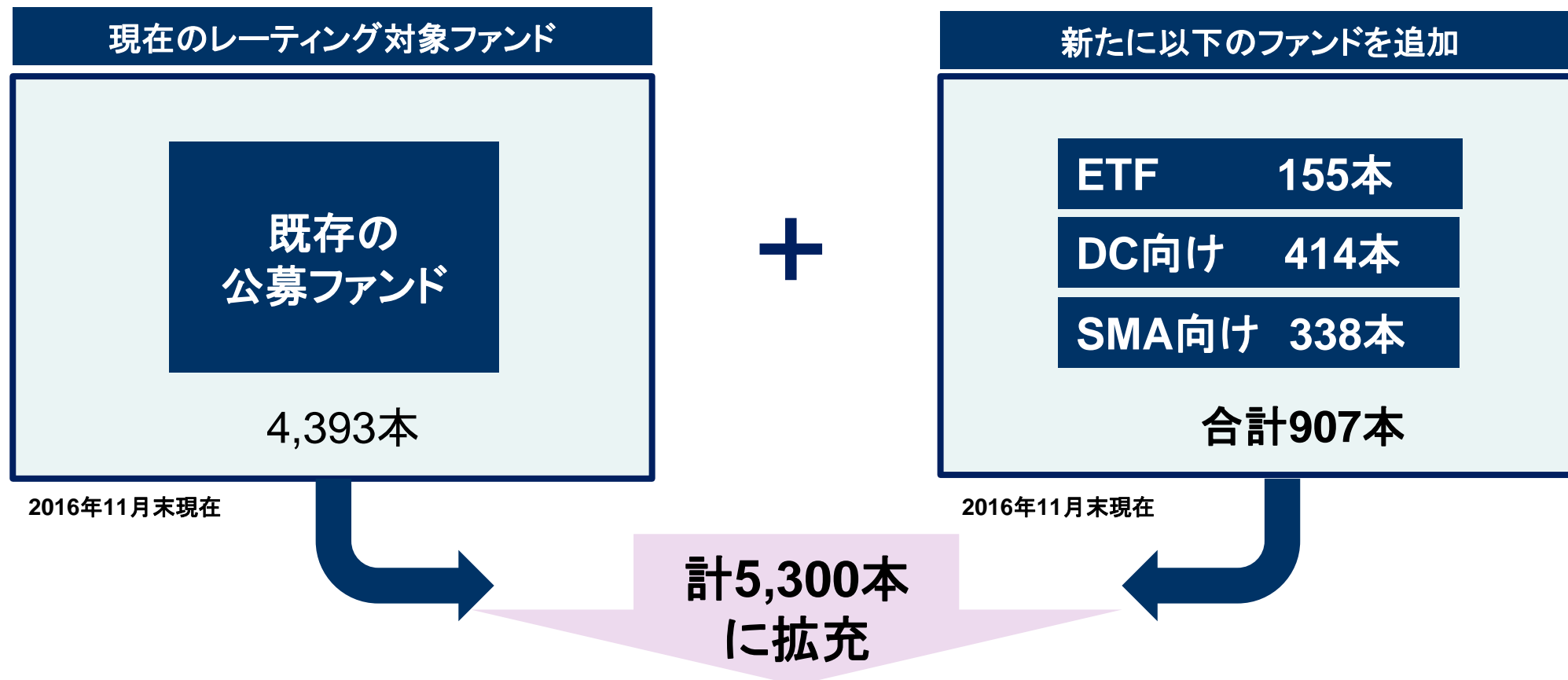
ファンドレポートの売上高の拡大は、金融庁の“フィデューシャリー・デューティー”の徹底が後押し

＜ファンドレポートの売上高＞



モーニングスターレーティングのユニバースを拡充

2017年1月より、レーティング対象ファンドを既存の公募ファンドに加えて、ETF及び確定拠出年金(DC)専用ファンド、SMA(ラップ向け)ファンドにも拡充



一般の投資家からも要望が多い、ETFやDCファンドの評価情報を拡充することで、今後、日本においても急速に拡大が見込まれるそれぞれの分野での新規プロダクト、サービスの開発を急ぐ。

モーニングスターの「iDeCo専用サイト」を開設

「金融機関比較ガイド」や「iDeCoサイトランキング」が人気



「金融機関比較ガイド」

金融機関比較ガイド
金融機関の取り扱い商品が一目で分かる

手数料比較 | 商品内容検索 | 問い合わせ先

iDeCoへの加入時には初期費用2,777円（税込）が必要であり、さらに下記のような月額手数料がかかります。国民年金基金連合会への収納手数料は共通ですが、運営管理機関に支払う口座管理料は金融機関によって異なります。

No.	金融機関名	月額手数料の内訳			手数料合計 (月額)	手数料合計 (年額)
		国民年金基金 連合会 手数料	事務委託 手数料	運営管理機関 手数料		
1	SBI証券	103	64	0	167	2,004
1	湘田豊出銀行※	103	64	0	167	2,004
1	スルガ銀行	103	64	0	167	2,004

「iDeCoサイトランキング」

iDeCo（個人型確定拠出年金）サイトランキング
総合得点

iDeCo（個人型確定拠出年金）サイトランキングは以下のとおりとなりました。このランキングは2017年6月7日～2017年6月12日までの個人型確定拠出年金の運営管理機関サイトの情報にもとづいて評価を行い、上位15サイトを選出、掲載しております。

順位	サイト名	得点	Webサイト
1	SBI証券	9.26	Webサイト
2	りそな銀行	8.78	Webサイト
3	楽天証券	8.78	Webサイト

資産管理コラム

iDeCo運営管理機関手数料は「無料」が当たり前！？ = iDeCo手数料の現在値
(2017/06/09 16:49)

iDeCoで金投資！？ 最強の現物資産「金」の魅力とは
(2017/06/01 13:43)

確定拠出年金の「指定運用方法」って？ 最有力は「ターゲットイヤーファンド」
(2017/05/23 15:06)

iDeCoニュース

今年度のiDeCo広報活動、テレビCMは7-8月と1月に実施、9-10月にシンポジウム開催
(2017/06/14 10:33)

SBI証券のiDeCo、運営手数料の完全無料化、ロボアド導入などサービスを大拡充
(2017/06/08 09:44)

DC法第1条を改めて確認することに至った確定拠出年金の運用に関する専門委員会
(2017/06/06 19:12)

iDeCo動画

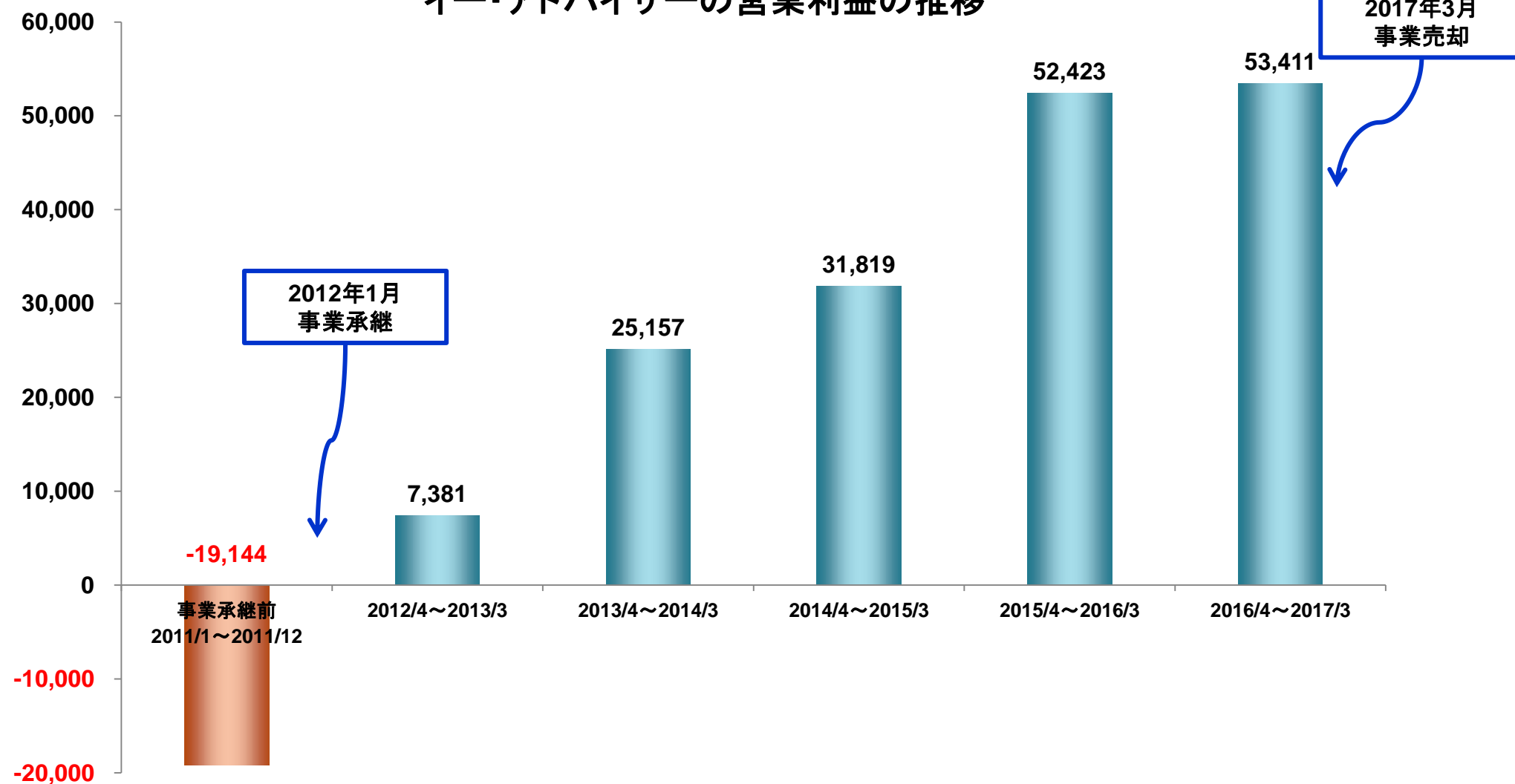
iDeCoセミナー『iDeCo』で自分年金をつくる
モーニングスター株式会社 代表取締役社長 朝倉 智也

マネーロック事業の売却による特別利益の計上

イー・アドバイザーが営むマネーロック事業を700百万円で売却し、特別利益を617百万円計上

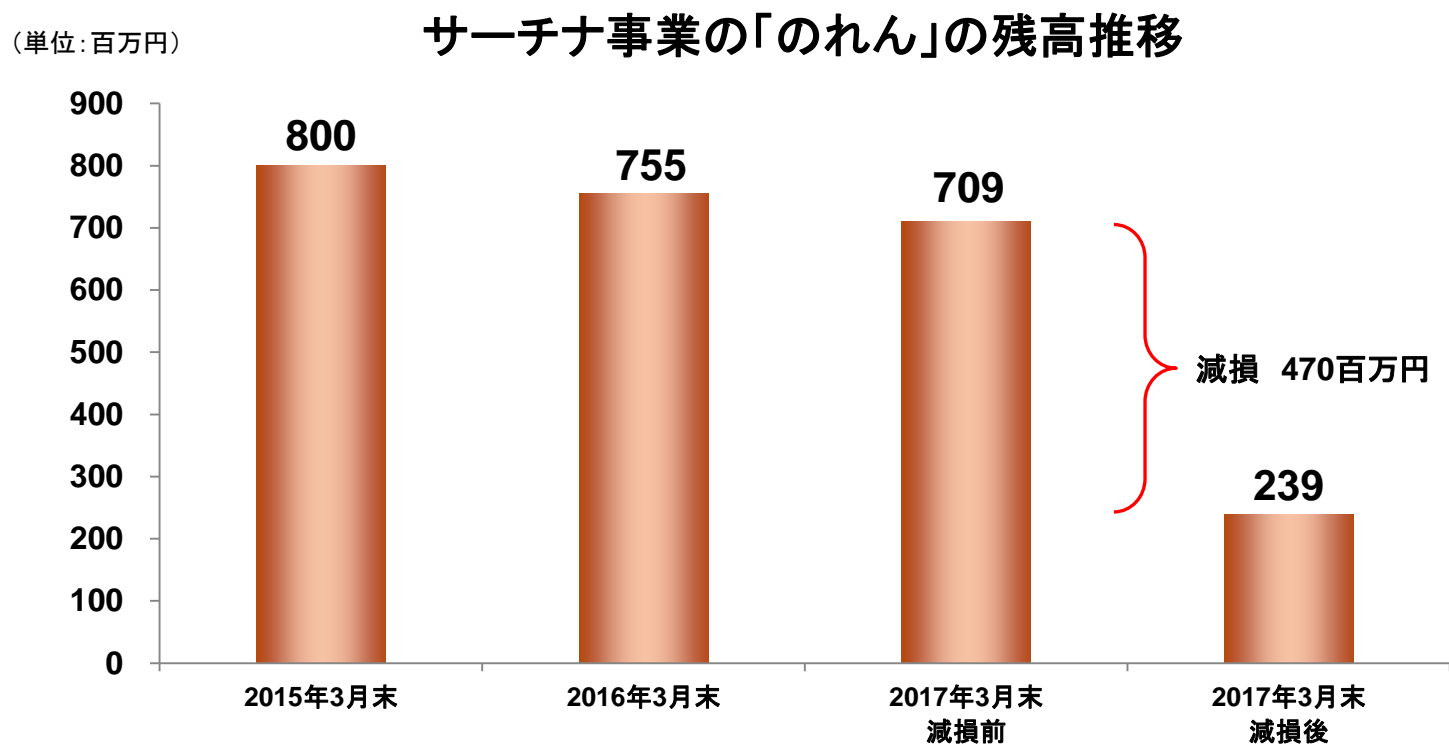
(単位:千円)

イー・アドバイザーの営業利益の推移



サーチナ事業の「のれん」の減損処理による特別損失の計上

サーチナ事業の現時点における収益性を鑑み、連結資産を健全化するために、
サーチナ事業に係わる「のれん」を470百万円減損処理



サーチナ事業の「のれん」の年間償却額

(単位:千円)

	2017年3月期	2018年3月期(見込)	減少額(見込)
「のれん」の年間償却額	45,436	15,329	△ 30,108

SBIアセットマネジメントの業績

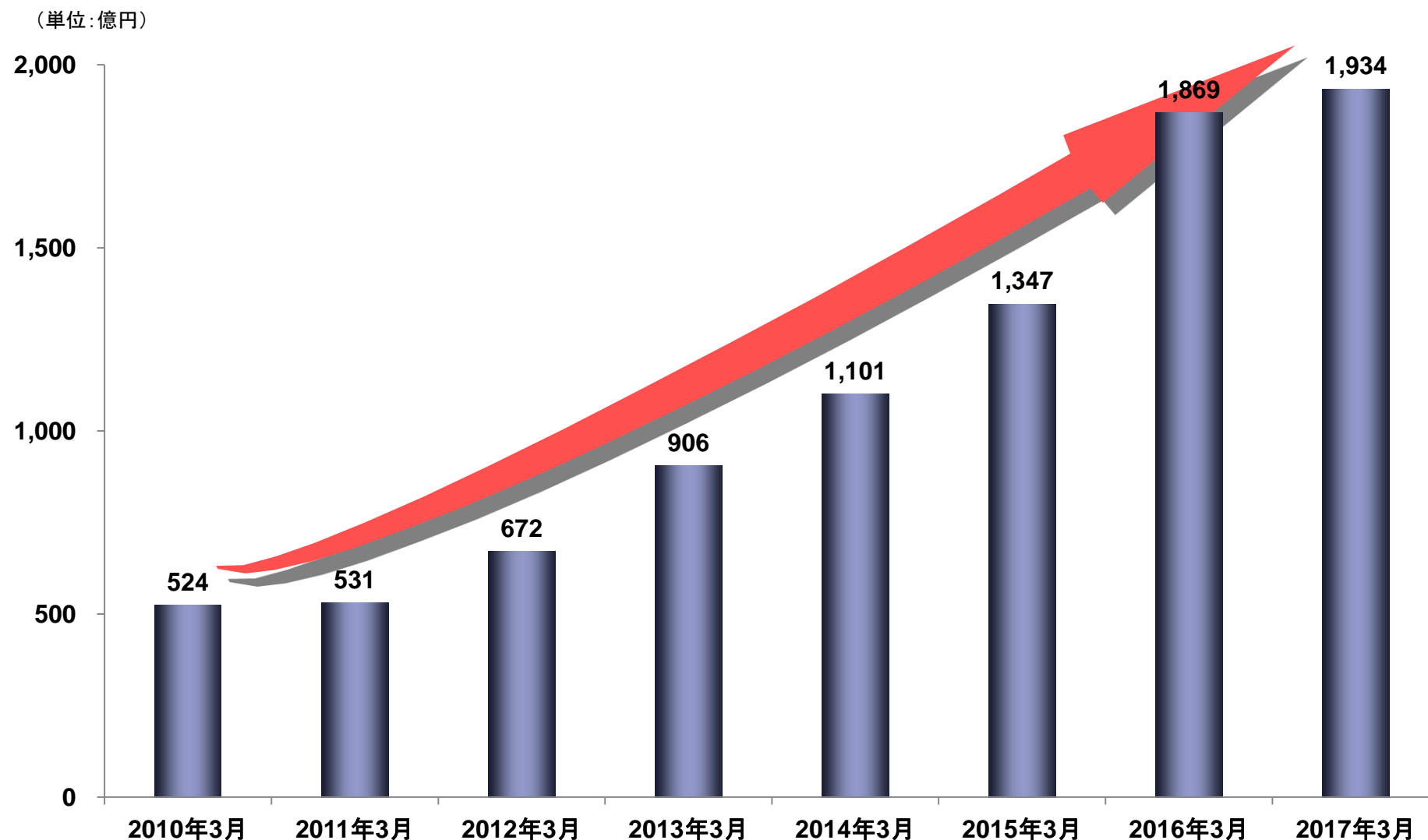
(単位:千円)

	2016年3月期 (2015年4月～2016年3月)	2017年3月期 (2016年4月～2017年3月)	増減率 (%)
売上高	1,864,421	1,751,403	△ 6.1
営業利益	395,016	358,969	△ 9.1
経常利益	396,250	360,017	△ 9.1
当期利益	264,026	247,564	△ 6.2

※ 子会社SBI Fund Management Company S.A.を連結した数値。
当期利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を意味する。

SBIアセットマネジメントの運用するファンドの純資産残高の推移

純資産残高は7期連続で増加、前年比で3.4%増。



SBIアセットマネジメントは数々のファンドアワードを受賞

トムソン・ロイターリッパリー・ファンド・アワード 2017年

賞	ファンド名	ファンド分類	評価期間
最優秀ファンド賞	SBI中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ	株式型 日本株 中小型株	10年
最優秀ファンド賞	中小型成長株ファンド-ネクストジャパン-	株式型 日本株 中小型株	3年

一億人の投信大賞 2016年

賞	ファンド名	ファンド分類
外国株式部門 第3位	EXE-I 先進国株式ファンド	外国株式

R&Iファンド大賞 2017

部門	賞	ファンド名
投資信託／総合	国内株式総合	最優秀賞 ※ 2年連続受賞
投資信託10年	国内中小型株式	最優秀ファンド賞 SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ
投資信託	国内中小型株式	最優秀ファンド賞 中小型成長株ファンド-ネクストジャパン-
投資信託	国内中小型株式	優秀ファンド賞 SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ
投資信託	アジア株式 マルチカントリー	最優秀ファンド賞 SBIインド&ベトナム株ファンド
iDeCo・DC	外国債券	最優秀ファンド賞 EXE - i 先進国債券ファンド

Part 3

当社を取り巻く事業環境と今後の戦略

日米の家計の資産構成比

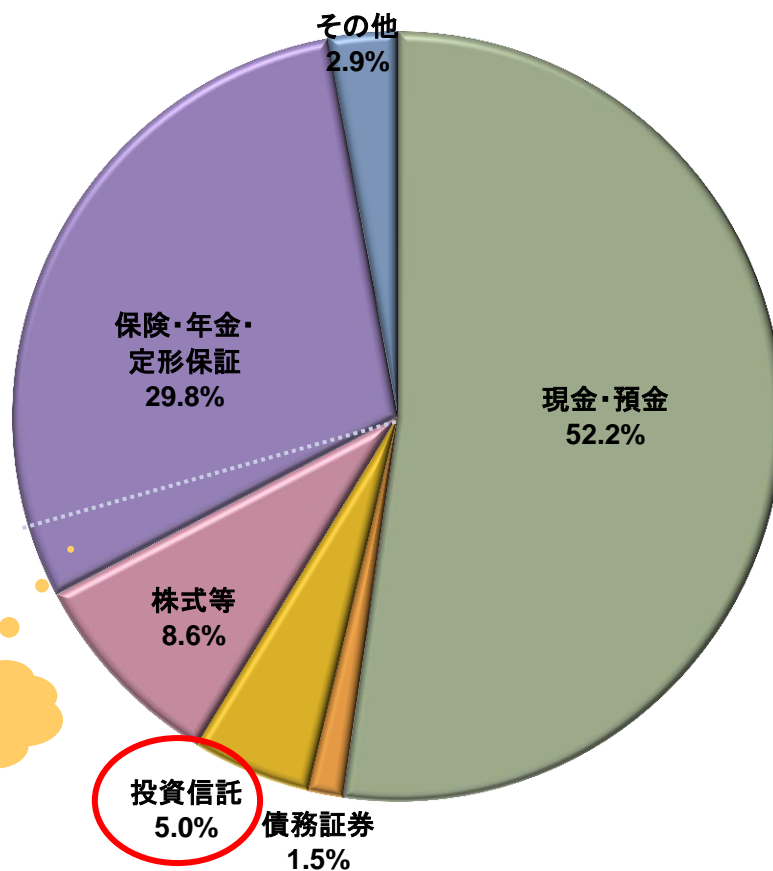
日本は「貯蓄」から「資産形成」へ

日本

1,752兆円

(2016年9月末現在)

投資信託(401k含む) 5.4%

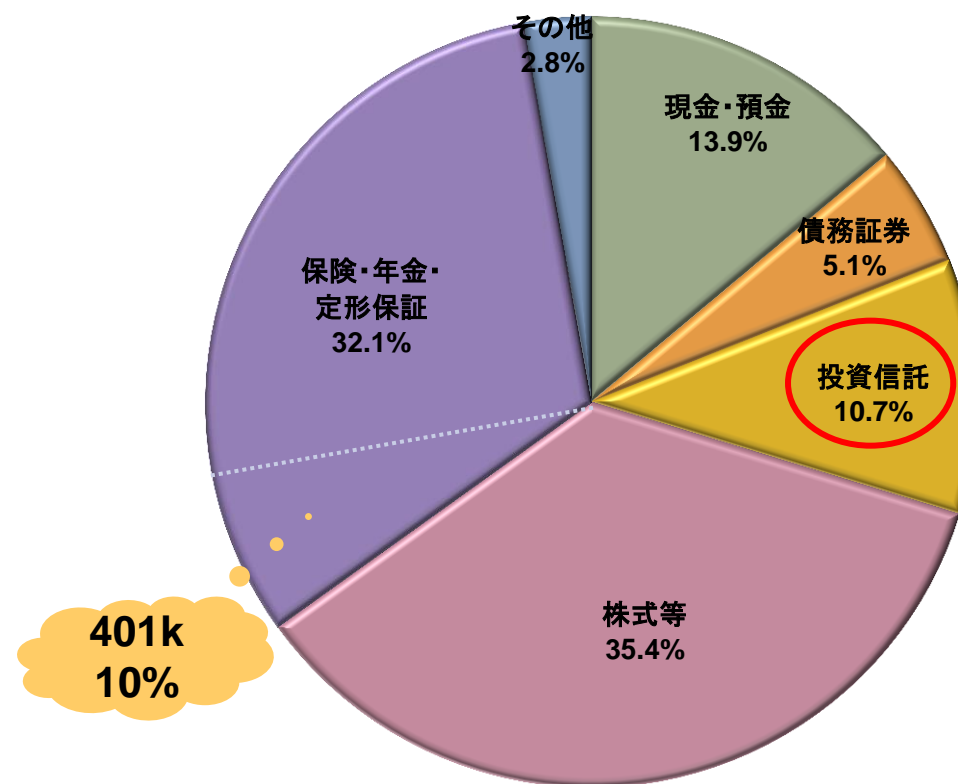


米国

73.1兆ドル

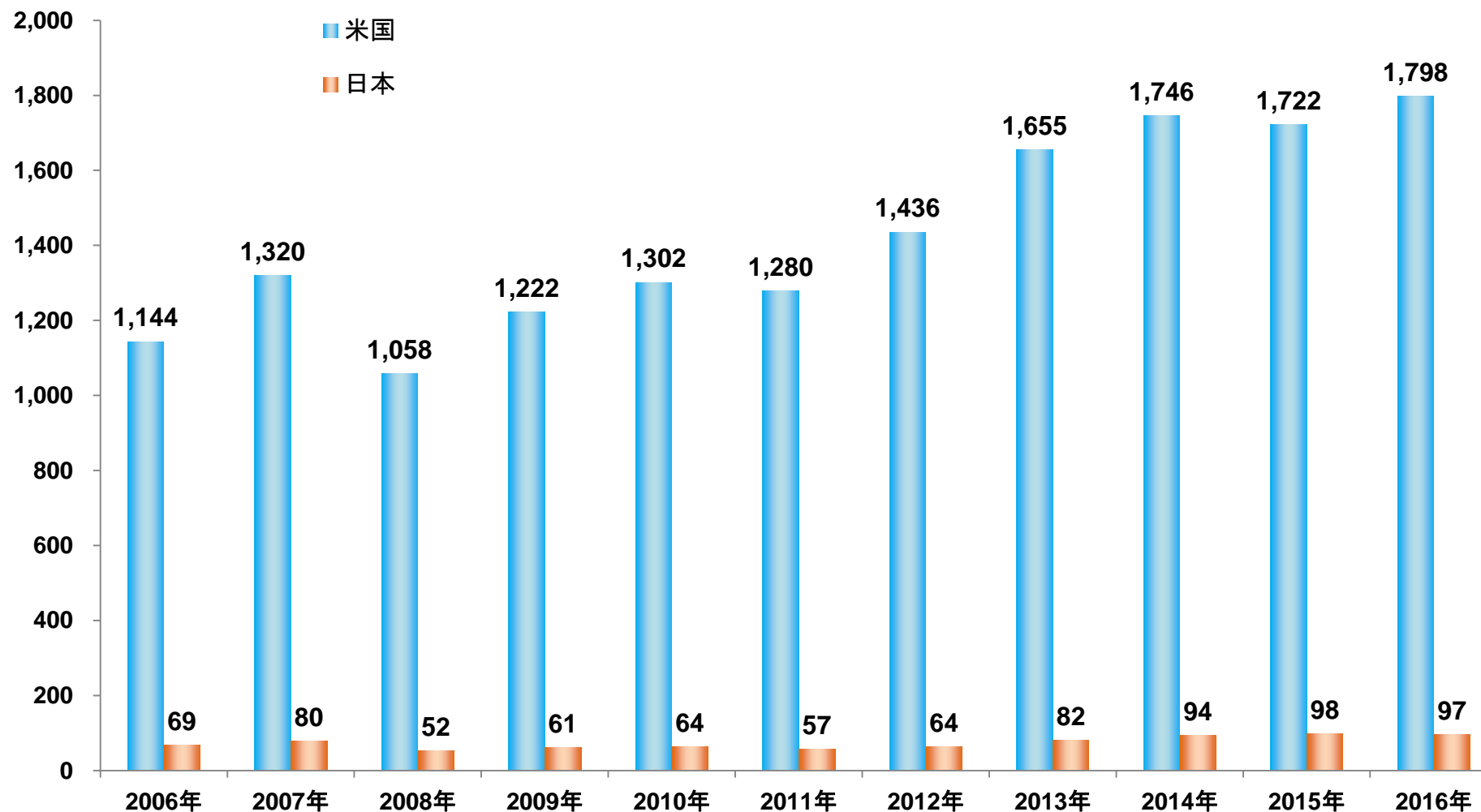
(2016年9月末現在)

投資信託(401k含む) 20.7%



日米の公募投資信託の純資産残高推移

(単位:兆円)

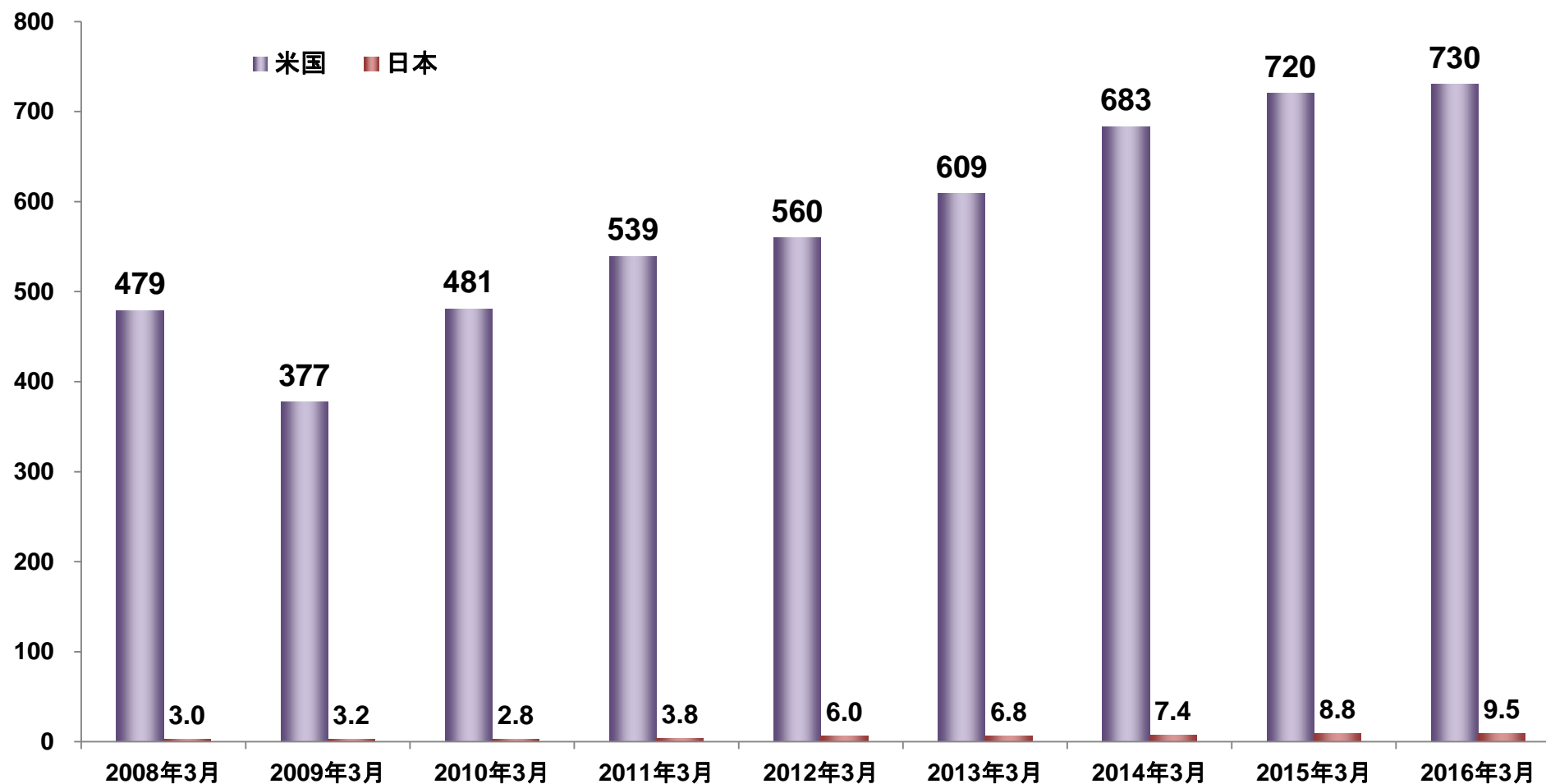


※ 米国=ICI「Investment Company Total Net Assets」、日本=投信協会「公募投資信託の資産増減状況(総合)」より、モーニングスター作成

※ 残高は各年の12月末時点(米国は1ドル=110円で円換算)

日米の確定拠出年金の残高推移

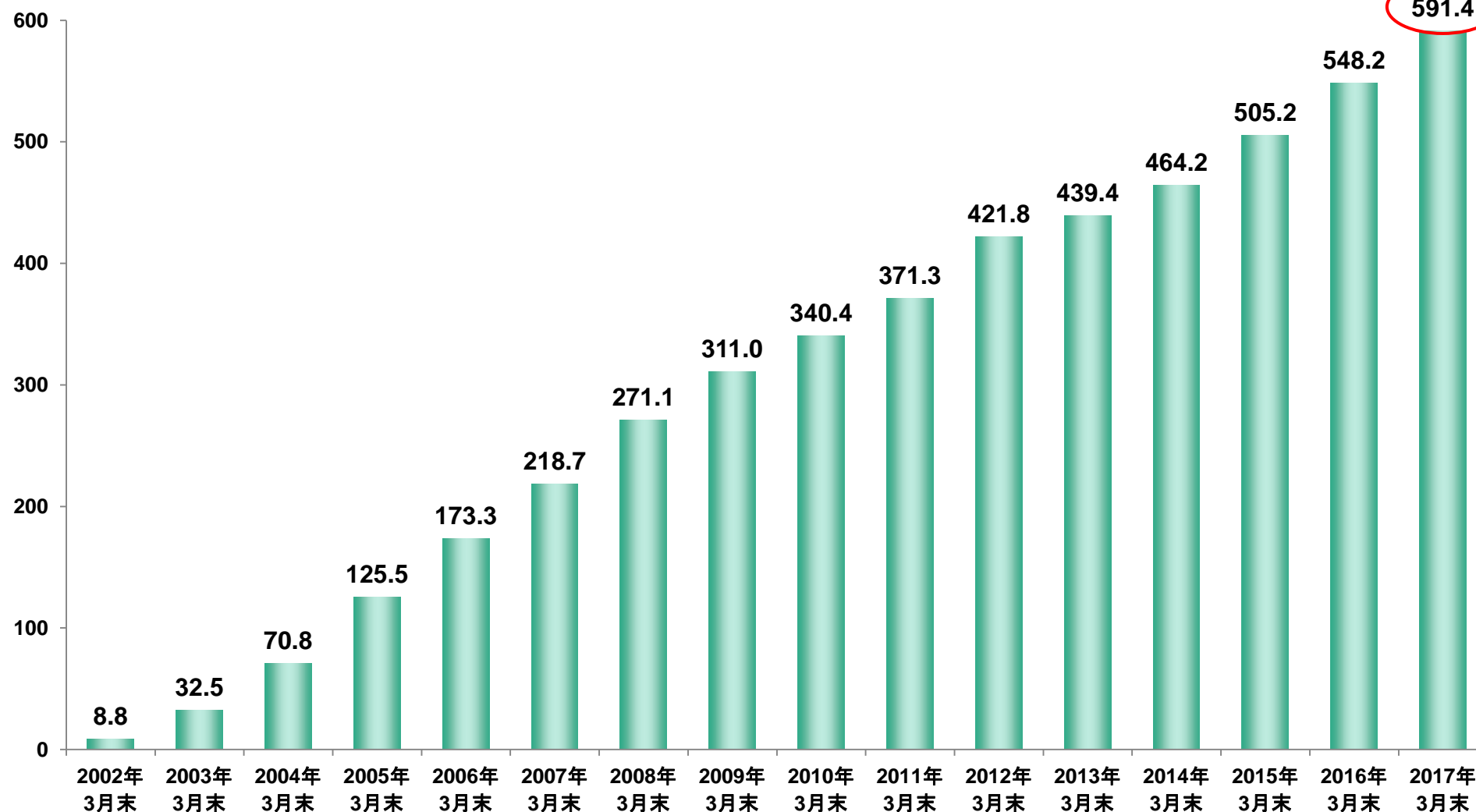
(単位:兆円)



※米国=ICI「US Total Retirement Assets」、日本=信託協会「確定拠出年金(企業型)の統計概況」より、モーニングスター作成
 ※純資産額は各年の3月末時点(米国は1ドル=110円で円換算)

企業型確定拠出年金の加入者数の推移

(単位:万人)



※出所:厚生労働省 確定拠出年金制度 より、モーニングスター作成

確定拠出年金の改正法の概要

施行日：2017年1月1日

主な改正項目

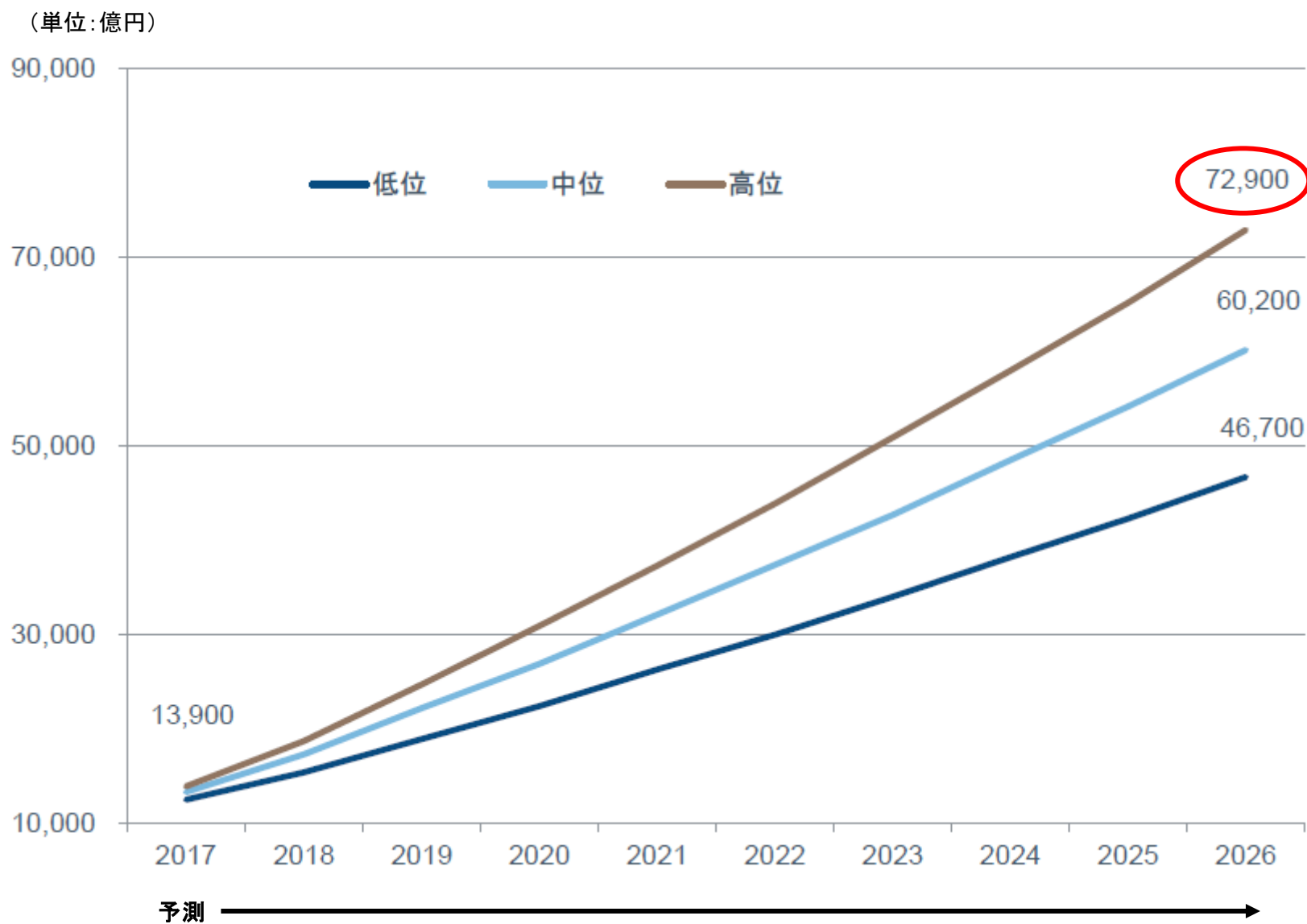
<企業型DC>

- 運用商品を選択しやすくするため、運用商品数を抑制する
- デフォルト商品の規定の創設
- 継続投資教育の努力義務化(配慮義務から努力義務に)

<個人型DC>

- 加入対象者の拡大
(第3号被保険者、公務員、企業年金がある企業に勤める従業員が、
新たな加入対象者に)

個人型DC 年金資産残高の推計

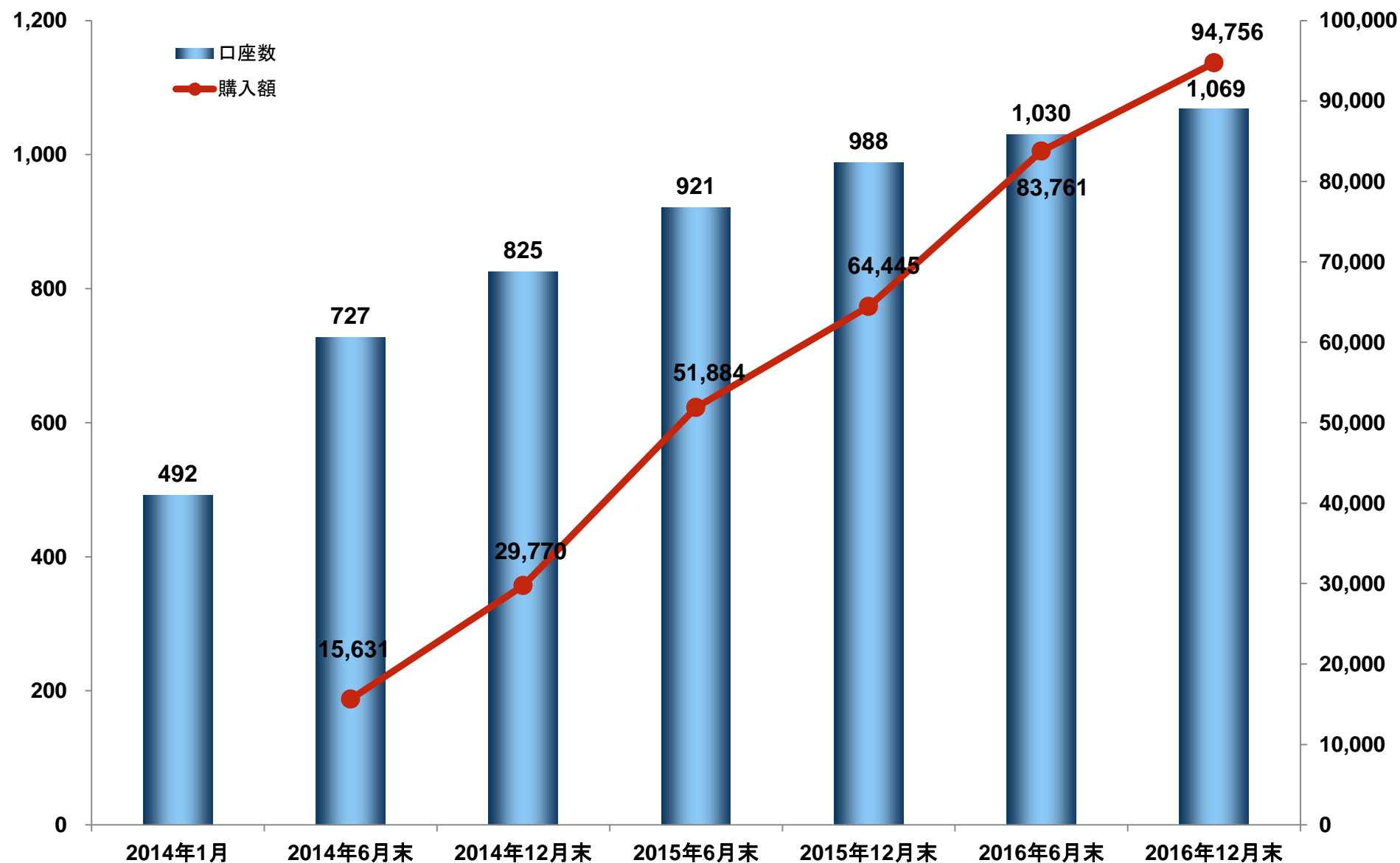


※出所:第3号被保険者の退職準備状況 個人型DC市場拡大の柱になれるか 2016年8月 フィデリティ退職・投資教育研究所 野尻 哲史より抜粋

NISA口座開設数及び購入数の推移

(単位:万口座)

(単位:億円)



※ 出所 金融庁 NISA口座の利用状況に関する調査結果より、モーニングスター作成

家計の安定的な資産形成に向けた取組み (金融庁資料:2017年2月3日付)

【積立NISAの創設】

- 積立NISAの創設
- 長期・積立・分散投資に適した一定の投資信託

【実践的な投資教育の推進】

- 家計向けの実践的な投資教材を作成し、活用を促進
- 商品比較情報等を判り易く提供する方法等を検討

【金融機関の顧客本位の業務運営の確立・定着】

- 「顧客本位の業務運営に関する原則」の策定
- 顧客本位の業務運営が実現されるための環境整備

販売金融機関のフィデューシャリー・デューティー(FD)のサポートサービス

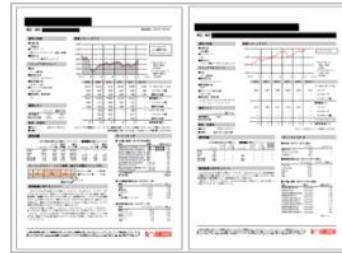
「3つの観点」から支援するサービスを地域金融機関に提供

① 取扱い投資信託の分析(モニタリングレポートの提供)

・ラインナップ分析



・ファンドモニタリング



② 顧客との情報の非対称性の解消(ITツールの活用)

・タブレットアプリ



・ロボアドバイザー



・積立投資ツール



③ 販売員向けの実践的な研修

・販売員研修



・ポートフォリオゲーム



中立的な立場からのファンドのラインナップ分析及び モニタリングレポートの提供

■ファンドのラインナップ分析

- ・京都銀行(57本)
- ・労働金庫連合会(60本)

■モニタリング分析レポート

- ・三井住友銀行(160本、年2回)
- ・SMBC信託(120本、年2回)
- ・ゆうちょ銀行(67本、年2回)
- ・日本生命DC(220本、年2回)
- ・水戸証券(16本、年4回)
- ・いちよし証券(33本、年2回)
- ・藍澤証券(11本、年2回)

国内株式（年1回決算型・大型）

■ 選定プロセス（2016年8月末時点）

国内公募追加型株式投資（確定拠出年金及びファンドラップ専用、ETF等除く）

国内大型株式全ファンド（498本）
スクリーニング条件Ⅰ

投資ユニバース（130本）
スクリーニング条件Ⅱ

投資候補ファンド（60本）
調査項目

最終候補ファンド（6本）

【スクリーニング条件Ⅰ】
① アクティブ運用
② 年1回決算型

【スクリーニング条件Ⅱ】
① 運用期間3年以上
② 投資期間3年以上、もしくは長期積立
③ 純資産額10億円以上
④ ★★以上
⑤ 選定選択意欲

【主な調査項目】
① 運用スタイル（カテゴリ）
② トータルリターン（絶対対数）
③ シェアベースリターン（絶対対数）
④ コスト（信託報酬） 相対比較
⑤ 対ベンチマーク（パフォーマンス）
⑥ 販売会社

■ 最終候補ファンド6本（2016年8月末時点）

銘柄	運用会社	運用スタイル	運用期間	純資産額	投資期間	コスト	対ベンチマーク	販売会社
三菱UFJ国際	三菱UFJ	成長	10	1,000	3	0.5%	0.5%	三菱UFJ
ファイガイ	ファイガイ	成長	8	1,000	3	0.5%	0.5%	ファイガイ
三井住友	三井住友	成長	6	1,000	3	0.5%	0.5%	三井住友
日興	日興	成長	4	1,000	3	0.5%	0.5%	日興
大和	大和	成長	3	1,000	3	0.5%	0.5%	大和
みずほ	みずほ	成長	3	1,000	3	0.5%	0.5%	みずほ
朝日フク	朝日フク	成長	2	1,000	3	0.5%	0.5%	朝日フク
野村	野村	成長	2	1,000	3	0.5%	0.5%	野村
DIAM	DIAM	成長	2	1,000	3	0.5%	0.5%	DIAM
3PEB	3PEB	成長	2	1,000	3	0.5%	0.5%	3PEB
コイ	コイ	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	コイ
新発	新発	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	新発
SBF	SBF	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	SBF
7AN	7AN	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	7AN
イリス	イリス	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	イリス
イベル	イベル	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	イベル
IR	IR	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	IR
ド付	ド付	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	ド付
AT	AT	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	AT
三井住友AM	三井住友AM	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	三井住友AM
明治安田	明治安田	成長	1	1,000	3	0.5%	0.5%	明治安田

■ 選定プロセスの概要

2016年8月末時点で運用されている国内公募追加型株式投資（確定拠出年金及びファンドラップ専用、ETF等除く）4,335本の中から、国内大型株式を対象とするためから、アクティブ運用で、かつ、年1回決算型（スクリーニング条件Ⅰ）の190本を投資ユニバースとして抽出し、投資ユニバースの中から、運用期間3年以上、★★以上の項目（スクリーニング条件Ⅱ）を基準に投資候補ファンド60本を選定した。その後、カテゴリー別の順位（順位）を考慮の上で、投資候補ファンド60本の中から、最終候補ファンド6本を選定した。

なお、最終候補として選定されたファンドのうち、「ストラテジック・バリュー・オープン」は、「ファンド・オブ・ザ・イヤ」では2015年の最優秀ファンド賞を受賞し、「4年連続最優秀」を受賞している。「スクウェア・新・信託型国内株式ファンド」は2015年2年連続の最優秀ファンド賞を受賞、「三井住友 日本株オープン」は1999年に優秀ファンド賞を受賞している。

委託会社別本数（2016年8月末時点）

委託会社	本数
三菱UFJ国際	10
ファイガイ	8
三井住友	6
日興	4
大和	3
みずほ	3
朝日フク	2
野村	2
DIAM	2
3PEB	2
コイ	1
新発	1
SBF	1
7AN	1
イリス	1
イベル	1
IR	1
ド付	1
AT	1
三井住友AM	1
明治安田	1

アジア好利回りリート・ファンド

■ 詳細事項

■ 運用成績

■ 概説

「アジア好利回りリート・ファンド」は、ファンド・オブ・ファンズ方式で、実際には日本を除くアジア・オセアニア地域の上場リート（不動産投資信託）に投資を行うアクティブファンドである。オセアニア地域も投資対象に含めており、組入れ銘柄（2016年6月末時点）は10銘柄。同業ファンドと比較して高い利回りであることから、地域・銘柄とに強みのあるポートフォリオを構築している点が特徴の一つである。

投資先ファンドの運用は、三井住友アセットマネジメント（以下、同社）の株式運用グループに委嘱し、戦略的に行う。当該は、約25年の運用実績を有する。リート運用は、拠出に加え、2人のファンドマネージャー、5人のアナリストが携わっており、投資対象リートの約7%（時価総額ベース）をカバーする体制が構築されている。

当ファンドの数年のトータルリターンは、2015年までの過去4年間のうち、2013年を除く3年間で同業ファンド平均を上回った。また、数年のシャープレシオでも、2013年を除く3年間で同平均を上回っており、相対的な運用の効率性でも優位な傾向にある。

2016年6月末時点における同社の純資産総額では、当ファンドも含めたリートファンドが国内公募追加型株式投資（確定拠出年金向け）及びファンドラップ専用、ETF等除くの上場リートを含めており、主力商品の一角を形成している。

以上の点を総合的に考慮すると、当ファンドは新規に取らぬ限りファンドとして、相対的に優位な傾向があると考える。

アジア好利回りリート・ファンド

運用成績

当ファンドの2016年6月末までの過去1年間のトータルリターンは6.68%と、モニングスター同業ファンド平均（「国際REIT・アジア・オセアニア（国）」）を上回った。また、2013年を除く3年間で同業ファンド平均を上回った。また、数年のシャープレシオでも、2013年を除く3年間で同平均を上回っており、相対的な運用効率性でも優位な傾向にある。

参考として、拠出先運用を行う「リート・アジア・オセアニア（毎月決算型）」をもとに、同業ファンド平均（「国際REIT・アジア・オセアニア（国）」）に置き、2016年6月末時点のモニングスターレーティングは2つ星となっている。

なお、2016年6月末時点では、当ファンドが所属する「国際REIT・アジア・オセアニア（国）」は、1星を獲得している。これは、2016年6月末時点のモニングスターレーティングは2つ星となっている。

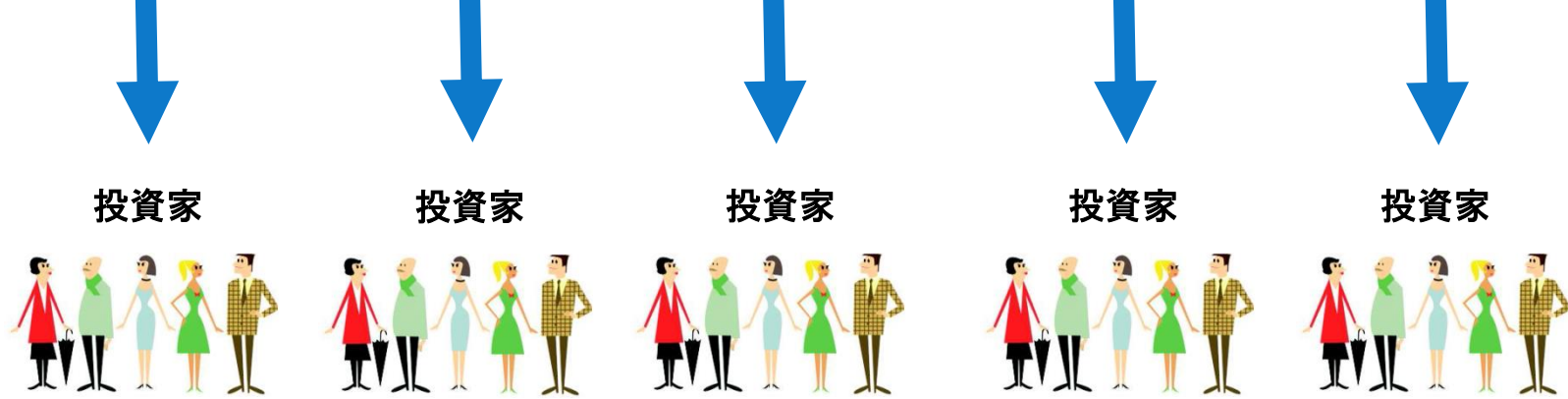
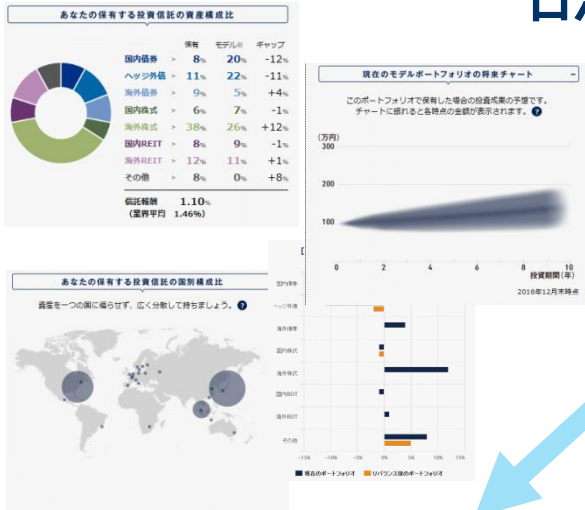
また、同ファンドは同業ファンドを含めて36本のファンドの中で、2013年を除く3年間で同業ファンド平均を上回った。また、数年のシャープレシオでも、2013年を除く3年間で同平均を上回っており、相対的な運用効率性でも優位な傾向にある。

運用成績（2016年6月末時点）	1年	3年（標準）	5年（標準）	7年（標準）	10年（標準）	15年（標準）	20年（標準）
トータルリターン	-6.68%	49%	7.38%	42%	-	-	-
標準偏差	17.10%	56%	13.56%	34%	-	-	-
シャープレシオ	-0.39	0.89	0.54	0.25	-	-	-

トータルリターン

投資アドバイザー向けのITツールの提供

ロボ・アドバイザーツールのコンサル、開発、運営



投信販売員向けの実践的な研修サービスの提供

＜ポートフォリオ構築のシミュレーション＞ （ポートフォリオゲーム）

預り資産営業の好事例④ 足利銀行
ポートフォリオゲーム（3か月間の投信ポートフォリオ構築）により、長期分散投資の重要性を体感

ポートフォリオゲームの概要

事前準備 → 約3ヶ月間 → 約2週間 → 集合研修（プレゼン大会）

■ **ポートフォリオゲームの狙い**

- ・ファンドの理解度向上
- ・ポートフォリオ提案能力の向上
- ・プレゼンテーション能力の向上
- ・マーケットの情報収集能力向上
- ・プレゼン内容共有による全体のレベルアップ
- ・表彰制度によるモチベーションアップ

■ **対象者**

- ・（2017年1-3月）入行2年目の行員
- ・（2017年4-6月）支店長対抗

■ **ポートフォリオゲームの効果（実際の声）**

- ・短期間で手数料分を取り返すのは困難。
- ・販売手数料を頂戴する以上、提案内容に裏付けを持つべく、マーケットの方向感を理解することは重要。
- ・今後は組み合わせた商品の相性を考えて提案していきたい。

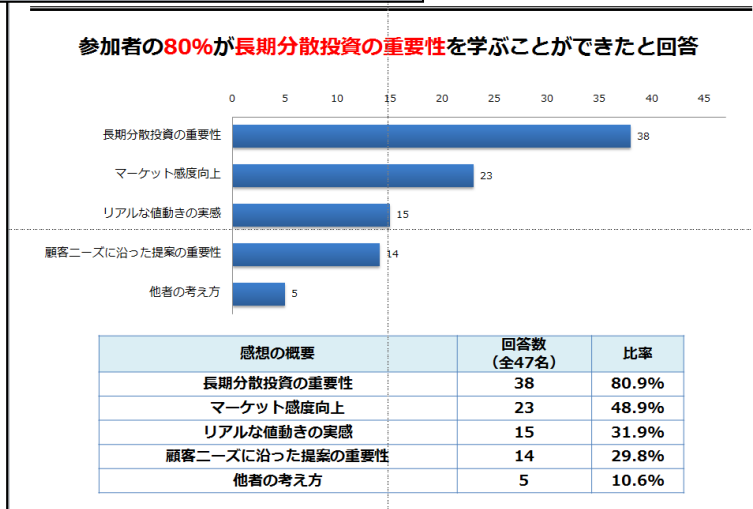
参加者の主な感想② 今後の販売にどう活かすか（有効回答数47名）

長期分散投資の推進	39	(83%)
より顧客ニーズに沿った提案	29	(61.7%)
マーケット情報収集力強化	16	(34%)
更なるツールの活用	10	(21.3%)
アフターフォローの充実	9	(19.1%)

＜投信販売員向けセミナー＞



金融機関	人数	対象者
足利銀行	300	リテール担当者
大東銀行	200	専担者
鳥取銀行	200	リテール担当者
城北信用金庫	100	各支店の支店長
北洋銀行	50	営業店課長
西中国信金	500	全職員



投信販売員研修の好事例

＜北洋銀行＞

「投信新時代」に市場が求める投資アドバイザーとは？

＜西中国信用金庫＞

「投資家が求める投資アドバイザーの役割とは？」

「投信新時代」に市場が求める投資アドバイザーとは？

2017年4月17日
モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉智也

「一括投資」と「積立投資」の比較 (2)
＜国内株式投資＞
＜投資期間：2007年2月～2017年1月＞

種別	1年	10年(複利)
一括投資	1.10%	7.40%
積立投資	7.40%	37.8%
差額	-6.30%	30.4%
差額率	-17.7%	11.8%
ファンド数	104件	111件

2015年4月 購入合計 100万円
2017年4月 購入合計 164.4万円
1年 1.10%
10年 7.40%
10年複利 37.8%

購入合計 164.4万円
10年複利 37.8%

10年複利 37.8%

10年複利 37.8%

投資家が求める投資アドバイザーの役割とは？

2017年4月22日
モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉智也

投資期間や投資目標に応じて、運用資産を振り分ける

- 上の中長期の投資資産 > 企業型確定拠出年金や個人型確定拠出年金 (DeCo)、積立NISA等の非課税口座や一般 (課税) 口座を活用して、積立による積極的な運用。
＜国内外の株式型の投資＞
- 投資期間に必要な資産 > NISA (非課税口座) や一般 (課税) 口座を活用して、バランス運用。
＜比較的リスクの低い債券型の投資を組み合わせたバランス運用＞
- ＜生活費、緊急用予備費＞ 一般 (課税) 口座による安定運用。
＜預金と個人向け国債 (変動10年) >

■実施概要

- ・実施日：2017年4月17日 (月) 16:00～17:00 (60分)
- ・対象者：営業店課長職
- ・参加者数：50人程度＋動画参加多数

■実施概要

- ・実施日：2017年4月22日 (土) 10:30～12:00 (90分)
- ・対象者：全社員
- ・参加者数：500名以上

■参加職員からの声

- ・モーニングスターの朝倉氏の講演を聞いてすごくよかった。今までの外部講師のなかで一番よかった。
- ・モーニングスターの朝倉さんの講演は大変参考になりました。今後は付加価値のある提案を心がけたいと思いました。
- ・外部講師のセミナーは特に勉強になりました。投信の販売環境が良く理解できました。

■参加職員からの声

- ・実際の販売手法のみならず、外部環境や販売員としての姿勢など、普段聞くことのできない内容を聞くことができ、勉強になりました。
- ・AIやロボットが発達していく中で、自分達のこれからの役割を認識しました。
- ・長期積立投資の成果を実際のファンドに落とし込み、お話しいただけたことが説得力があり、今後力を入れていきたいと思った。

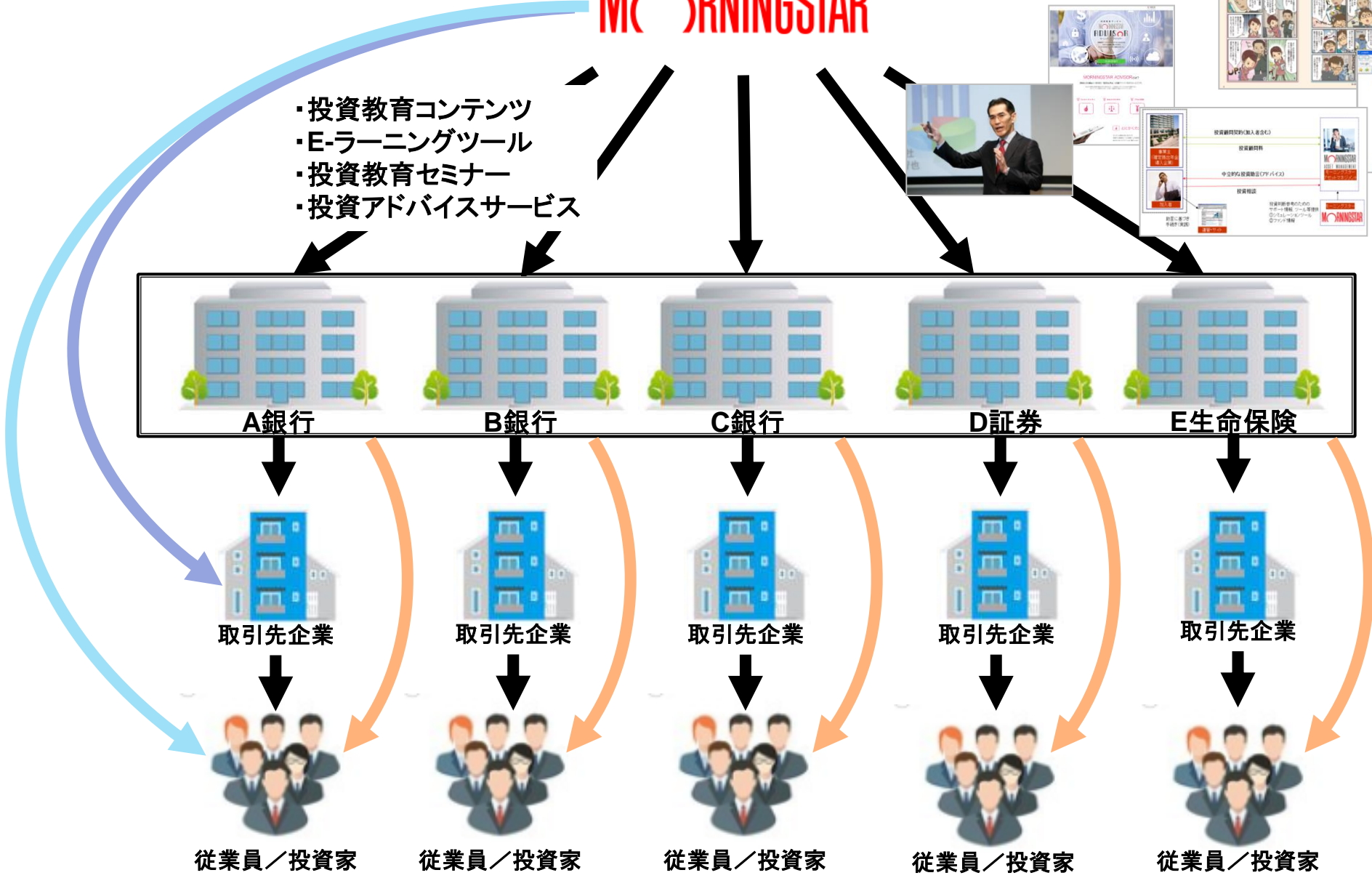
■参加職員からの声 (アンケート)

- ・このセミナーはお客様に聞いてもらえるべきと思いましたか？ **: はい 99%**
- ・投信自動積立をお客様に進めるべきと感じましたか？ **: はい 100%**
- ・タブレットをこれから活用しようと感じましたか？ **: はい 98%**

「企業の実践的な投資教育推進」のサポート



- ・投資教育コンテンツ
- ・E-ラーニングツール
- ・投資教育セミナー
- ・投資アドバイスサービス



債券格付(信用評価)事業への参入

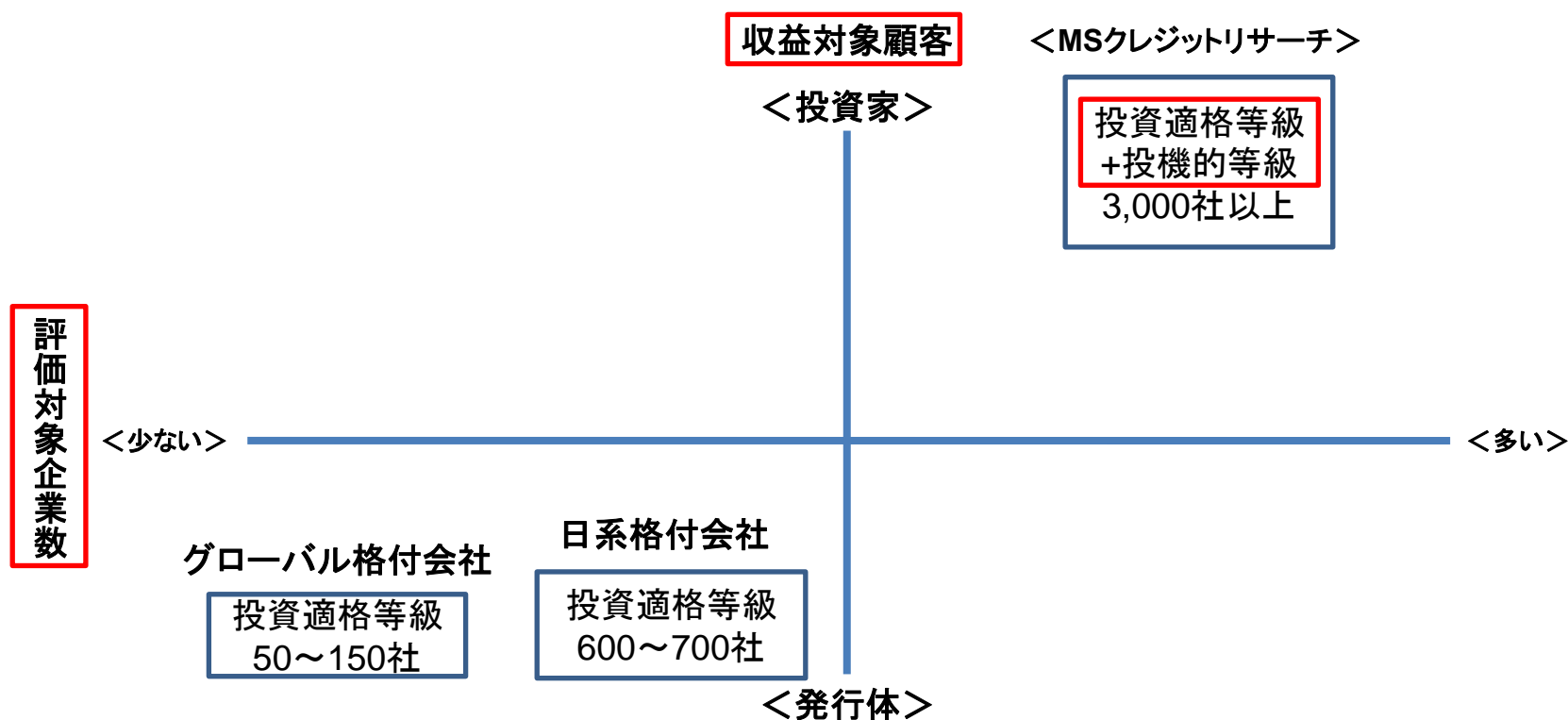
MSクレジットリサーチ株式会社 (モーニングスターの100%子会社)の設立

＜評価委員会議長＞ 森田 隆大
元ムーディーズの日本とアジアの格付部門統括責任者

＜特徴＞

- 信用力評価の対象として上場会社全社(約3,500社)を目指す。
- 債券を発行する企業からの依頼調査ではなく、公開情報からの分析評価で行う。
- これまでにない仕組みを導入。
 - ✓ 専門家の見識に基づく業界別モデルがベース。
 - ✓ 専門家による評価委員会が信用力評価を最終決定。

MSクレジットリサーチのポジショニング



評価会社	評価対象企業数	評価対象企業信用力レベル	収益対象顧客
MSクレジットリサーチ	3,000社以上	投資適格等級+投機的等級	投資家
グローバル格付会社	50~150社	投資適格等級のみ	発行体+(投資家)
日系格付会社	600~700社	投資適格等級のみ	発行体+(投資家)

インドネシアにおける事業展開

The logo for BII BINA INVESTAMA INFONET, featuring the letters 'BII' in a large, bold, white font on a dark blue background, followed by the full name 'BINA INVESTAMA INFONET' in a smaller, white, sans-serif font.

- 社名 : PT. Bina Investama Infonet
- 所在地 : インドネシア共和国 ジャカルタ市
- インドネシアの金融・IT事業を展開するコルフィナグループとの合併。
 - ・資本金 : 約2000万円
 - ・出資比率 : コルフィナ 51%、イー・アドバイザー 49%
- インドネシア初となる法人投資助言ライセンスを取得(2015年9月)
- 主な事業計画

(個人投資家向け)

WEBサイトを利用した投資情報発信。投資教育や有償の投資アドバイス等。

(機関投資家向け)

投信情報のデータ提供、運用会社への助言サービス

インドネシアにおけるデータベースの構築完了

これまでの投資信託やニュース情報に加えて、新たに株式、債券、
変額年金のデータベースの構築が完了

投資信託
1455 銘柄

ニュース
投資教育



株式
551 銘柄

債券
648 銘柄

変額年金
521 銘柄



- 販売会社向け(銀行、投信オンライン証券)
 1. 投信データの自動更新機能付きWEBプラットフォームサービス
 2. 販売ファンド選定用の定量分析データ

- 機関投資家向け(運用会社、年金)
 基礎データ(属性、価格)及びパフォーマンス情報
 (リスク情報、MPT指標データなど)のフィードサービス

Part 4

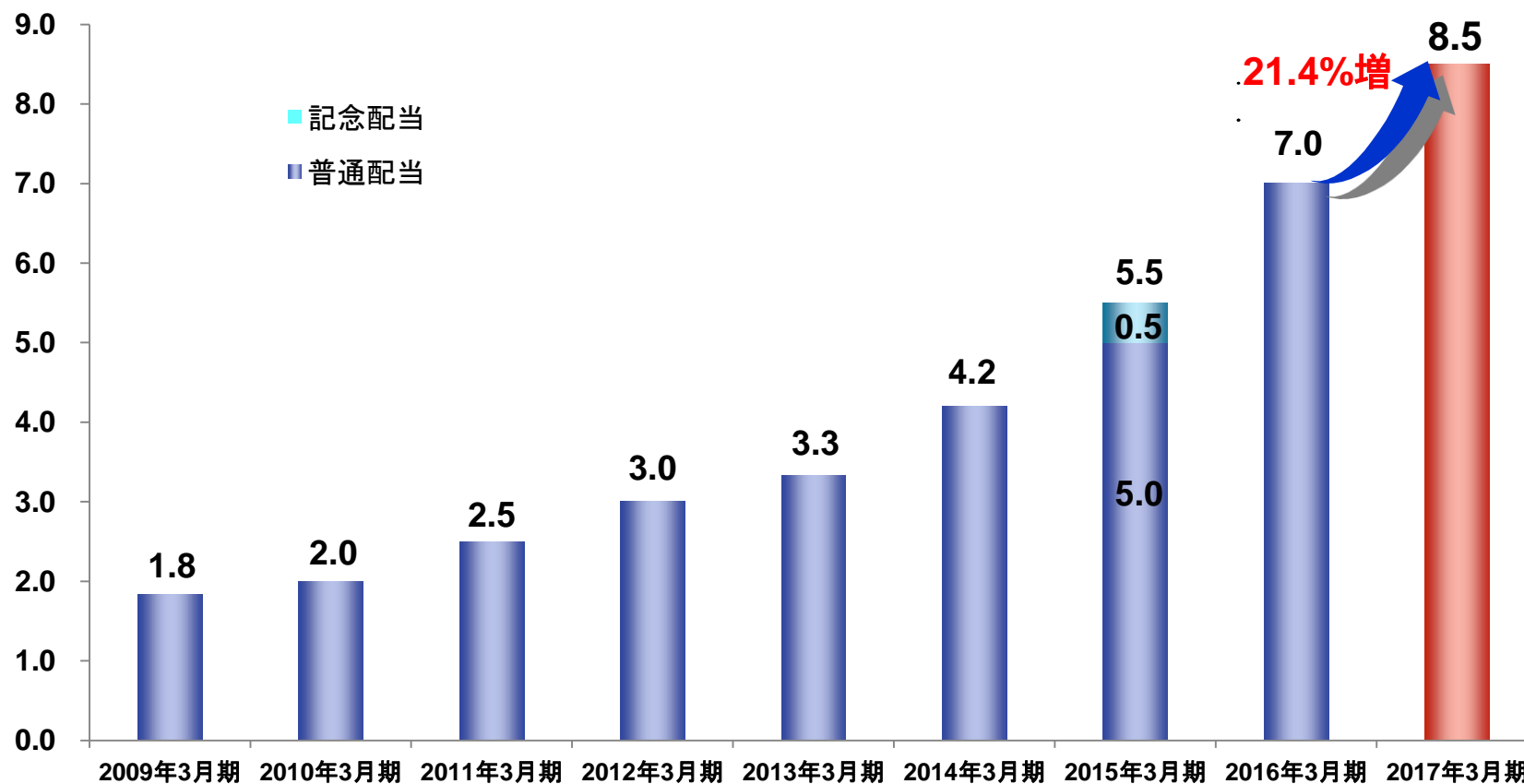
株主還元と株価

8期連続の増配

<期末配当> 2017年3月期の期末配当は、普通配当につき
1円50銭(21.4%)増配の8円50銭とする



(単位:円)

	前期(2016年3月期)実績	当期(2017年3月期)確定	増配額(率)
1株当りの期末配当金	7円00銭	8円50銭	1円50銭(21.4%)



株主優待の提供

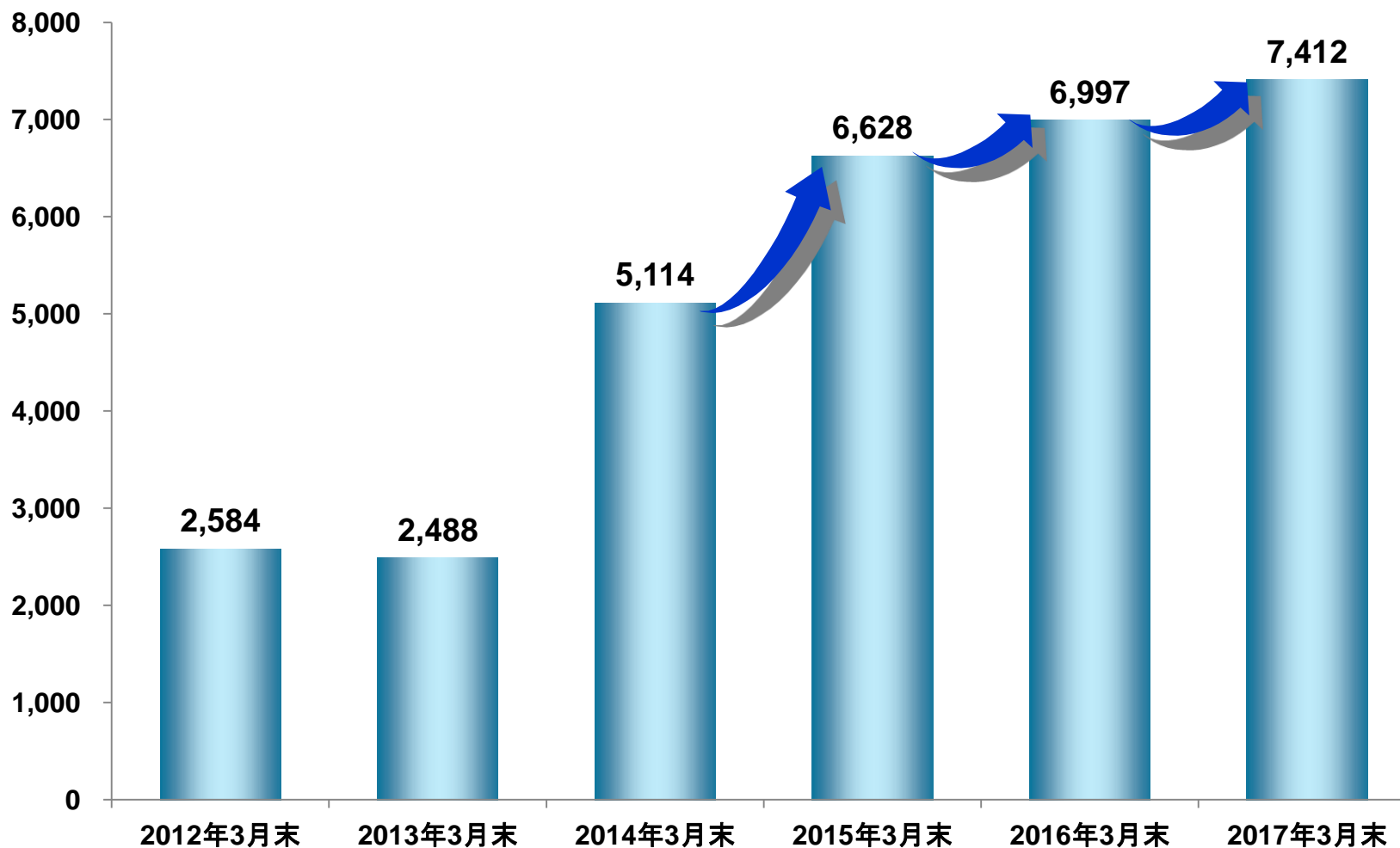
「株式新聞ウェブ版(通常月ぎめ1ヶ月4,320円(税込))」と
『アラプラス』の無料クーポンと商品半額割引購入券の提供

単元数(株数)	(1)『株式新聞ウェブ版』	(2) ①『アラプラス』 ②「ALA含有の健康食品・化粧品」	通常価格合計
1単元(100株)	2017年5月1日から	① SBIアラプロモが販売するALA含有の健康補助食品(サプリメント)『アラプラス』(通常価格2,980円)1個を無料で進呈する無料引換申込券 	15,940円
2単元(200株)	2017年7月31日まで		
3単元(300株)	3ヶ月間無料クーポン(12,960円相当)		
4単元(400株)	2017年5月1日から	② SBIアラプロモが販売するALA含有の健康補助食品(サプリメント)や化粧品を、通常価格から50%割引の優待価格で購入できる割引購入申込券1枚 	28,900円
5単元(500株)	2017年10月31日まで		
6単元(600株)	6ヶ月間無料クーポン(25,920円相当)		
7単元(700株)	2017年5月1日から		41,860円
8単元(800株)	2018年1月31日まで		
9単元(900株)	9ヶ月間無料クーポン(38,880円相当)		
10単元(1000株) 以上	2017年5月1日から 2018年4月30日まで 12ヶ月間無料クーポン(51,840円相当)		54,820円

株主数の推移

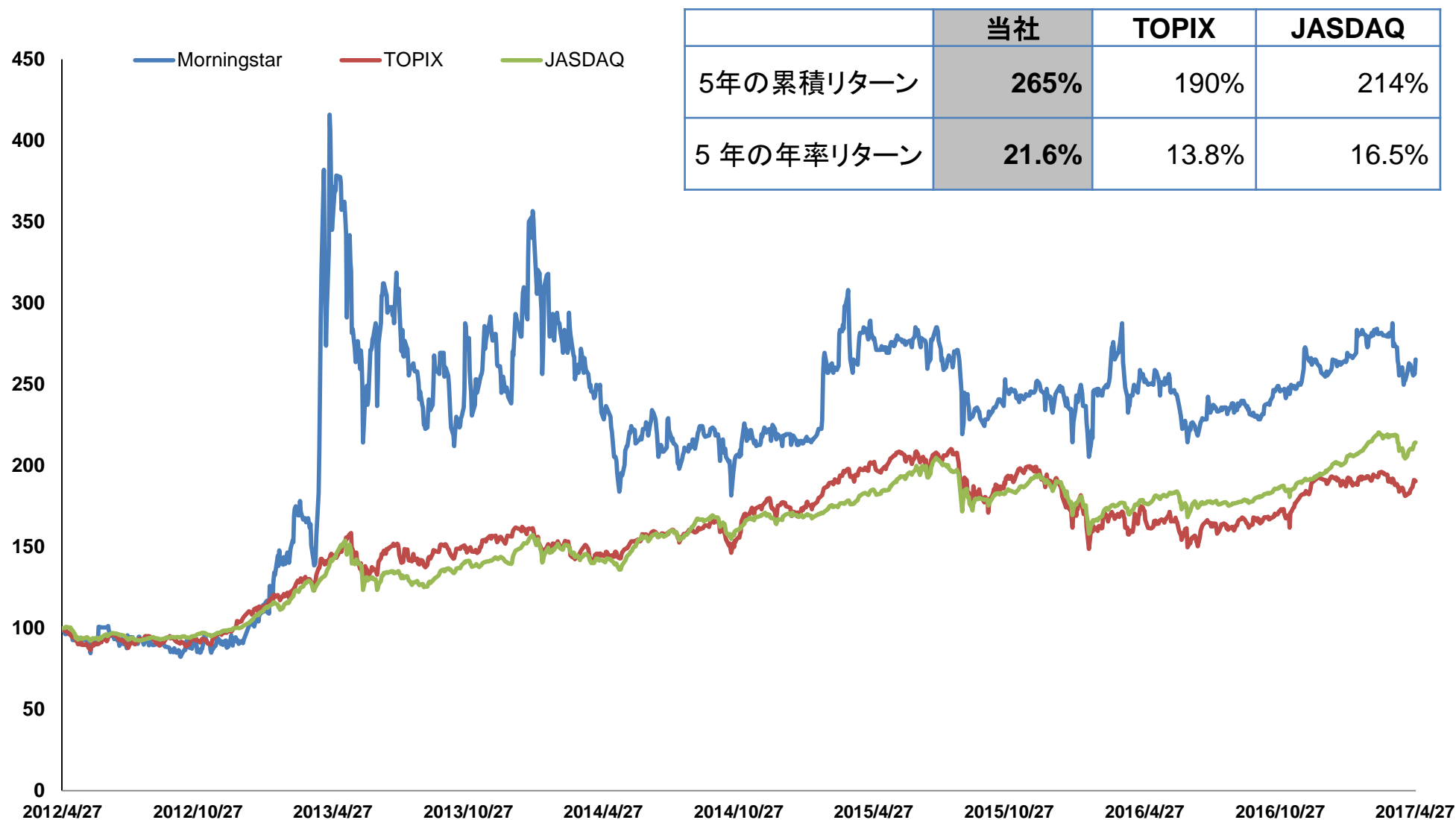
株主還元積極的に取り組み、株主数は着実に増加

(単位:人)



当社の株価(過去5年)

(2012年4月末～2017年4月末)



*株価指数は、2012年4月27日を100として計算。

株主資本利益率(ROE)

